

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第36集

長崎県埋蔵文化財調査年報 28

[令和元年度調査分]

2020

長崎県教育委員会

はじめに

長崎県には先人たちの残した3,800箇所を超える遺跡（埋蔵文化財）があります。こうした埋蔵文化財は地域の歴史を物語り、地域づくりや人づくりに活用できる国民共有の財産です。私たちはこれら先人から受け継いだ貴重な文化財を適切に保存・活用し、後世の人々に伝えていく責務があります。

長崎県教育委員会では、国・県の公共事業に伴う開発が行われる際には事前に予備調査及び開発部局との協議を行って埋蔵文化財の保護を図り、その結果やむを得ず保護できない場合においては記録保存のための発掘調査を実施しています。

令和元年度は五島市の県道福江富江線改良工事に伴う中島遺跡の発掘調査や、早岐川河川改修工事に伴う早岐瀬戸遺跡の発掘調査などを行いました。また、国特別史跡原の辻遺跡の全容解明のための範囲確認調査を継続的に実施しています。

本書は、令和元年度に長崎県教育委員会が行った全ての発掘調査の概要、長崎県埋蔵文化財センターが行った調査研究や遺物の保存処理、展示、普及啓発などの事業概要について掲載しております。本書が県民の皆様の地域の歴史や文化への理解の一助になれば幸いです。

令和2年8月

長崎県教育委員会教育長

池 松 誠 二

例　　言

- 1 本書は長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が令和元年度に実施した発掘調査の概要を収録したものである。
- 2 調査遺跡名の【】内は長崎県教育委員会の実施した遺跡調査番号である。
- 3 調査概要の遺跡位置図は長崎県教育庁学芸文化課のウェブコンテンツ『長崎県遺跡地図』を使用している。
- 4 IVについては各遺跡の調査担当者と調査概要の執筆者を文末に記している。
- 5 本書の編集は長崎県埋蔵文化財センターが行った。

本　　文　　目　　次

I.	長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状	1
1.	県が実施した発掘調査の現状	1
2.	市町が実施した発掘調査の現状	2
II.	本県が主催する文化財保護に関する研修事業	6
1.	長崎県市町文化財保護行政主管課長会議・担当者会議	6
2.	開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修	6
3.	埋蔵文化財担当者専門技術研修	7
III.	長崎県埋蔵文化財センターの事業	8
1.	調査研究事業	8
2.	保存処理事業	8
3.	教育普及事業	10
(1)	オープン収蔵展示	10
(2)	情報報誌	11
(3)	ホームページおよびFacebook の公開更新	11
(4)	体験学習	11
(5)	バックヤードツアー	11
(6)	資料貸出・閲覧・掲載許可	12
(7)	センター開所 10 周年記念イベント	12
(8)	長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援	12
(9)	学校教育支援「埋文MAIBUN学びのサポート」	14
(10)	現地説明会・発掘体験	14

4.	東アジア考古学研究事業	15
(1)	東アジア国際シンポジウムの開催	15
(2)	東アジア諸国の研究機関との連携	16
(3)	長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第10号の刊行	17
IV.	令和元年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要	18
1.	早岐瀬戸遺跡（範囲確認・本調査）【201901・06・14】	18
2.	定光寺前遺跡（範囲確認）【201903】	20
3.	中島遺跡（本調査）【201902】	21
4.	長崎西役所跡（範囲確認）【201905】	22
5.	畠中遺跡（本調査）【201907】	42
6.	原の辻遺跡（範囲確認）【201908・09】	43
7.	長貫B遺跡（隣接地）・寺中A遺跡（隣接地）・原口B遺跡（隣接地）・下源在高野遺跡（隣接地）・灰ノ久保遺跡（試掘・範囲確認）【201910・201911・201912・201913・201915】	44
8.	丸尾遺跡（新上五島町）（県指導）	48
9.	正興寺跡（佐々町）（県指導）	49
10.	末永遺跡（佐々町）（県指導）	49
11.	太田遺跡（西海市）（県支援）	50
12.	平倉遺跡（西海市）（県支援）	50

(報告書抄録)

I. 長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

令和元年度の周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等の届出・通知（法第93・94条）は、520件であった。工事届出件数は近年漸増傾向にあるが、その主な要因は新幹線事業や都市計画道路等大型公共事業に伴う都市部近郊の開発増である。ただ、その一方では比較的小規模な工事についても届出が提出されるようになってきており、事業者間で工事届制度への理解が深まってきた結果である。

発掘調査の届出・通知（法第92条・99条）は37件で、その内訳は、記録保存のための発掘調査が24件、自然崩壊1件、保存目的を含む学術調査等が12件である。開発対応の発掘調査等については新幹線関連事業が完了したことから、ここ数年は縮減傾向がみられる。しかし、高規格道路の建設や河川改修等が中・長期で計画されており、これらに伴う民間開発対応も含めて勘案すると当面は堅調に推移することが予測されている。

1. 県が実施した発掘調査の現状

令和元年度は大規模な公共工事に伴う発掘調査はなかったものの、3件の本調査を実施している。

五島市中島遺跡では主要地方道路福江富江線改良工事に伴って発掘調査を実施した。中島遺跡は福江島の南東側、富江湾奥部の湿地に立地しており、過去の調査で縄文時代の貯蔵穴などが確認されている。今回の調査区は遺跡の東側丘陵の裾部にあたる斜面地で、約670m²の面積で発掘調査を実施した。炉跡や焼土などが確認され、縄文時代後・晩期の土器・石器、弥生時代中期の土器、古墳時代から古代にかけての須恵器などが出土している。特に堅果類加工具と思われる台石・磨石・敲石などが多数出土しており、過去の調査で確認されたドングリ貯蔵穴などと共に加工場として機能があったと推測される。

島原市畠中遺跡では、国道251号線交通安全施設等整備工事に伴って発掘調査を実施した。畠中遺跡は有明海沿いに面する標高約14mの低丘陵上に位置し、過去の調査で縄文時代晩期の埋甕や中世の溝や建物跡、鍛冶遺構などが確認されている。今回の調査面積は約150m²で、溝や集石、ピットなどを検出し、縄文時代早期・晩期、弥生時代中期の土器・石器、古代から中世にかけての須恵器や土師器、青磁、石鍋片などが出土している。特に溝は出土遺物から鎌倉時代に掘られたものと考えられており、約1.6mの深さの断面逆台形で、掘削する際に刻まれた工具痕が確認されている。

佐世保市早岐瀬戸遺跡は早岐川河川改修工事に伴って発掘調査をおこなった。遺跡は17世紀前半に平戸藩による埋め立てが行われ、宿場・港湾などの機能をもつ町としてつくられた地域である。遺跡の中央には平戸往還（街道）が通っており、近くには平戸藩の本陣跡があったといわれている。しかし、町並みが描かれた絵図や文献等は確認されていない。今回の調査面積は約720m²で、遺跡の北側に位置し、北から延びる丘陵の先端部に位置する。したがって近世の町並みはもちろんのこと、それより遡る中世の溝なども確認されている。遺構は建物の基礎となる石列や廐棄土坑、井戸、木製構造物、炉跡などが検出され、17世紀から19世紀にかけての陶磁器や窯道具などが大量に出土した。また、木製構造物は現地表面下2mで検出され、その構造から醸造に関する搾り機の一部と考えられている。

島原道路については、出平・有明バイパス建設に伴い試掘・範囲確認調査を実施し、5遺跡（原口

B遺跡・寺中A遺跡・長貫B遺跡・下源在高野遺跡・灰ノ久保遺跡）の範囲内もしくは隣接地で試掘範囲確認調査を実施し、2遺跡（原口B遺跡・寺中A遺跡）の周辺で遺物包含層が確認され、遺跡の範囲が拡大し本調査が必要となった。

長崎西役所跡は、旧県庁舎跡地の再開発に伴い範囲確認調査を実施した。調査の結果、遺跡西側の一部については、近世の盛土・整地土及び近世の構造が少なくとも2面（1650年代・1630年代）残存していることが確認できた。また外周の石垣についても、出島に面する南東面及び南西面に一部石垣が残存していることが確認できた。出土遺物は、近世陶磁器類や瓦片、金属製品、ガラス製品、貝類、歯骨等が出土しており、調査に先行する工事立会では、花十字文瓦片も採集されている。今後はさらに遺跡の詳細を確認するための調査を実施する予定である。上記の内容を含め、県が令和元年度に実施した国・県の公共事業に伴う調査は、以下のとおりである。

【国事業】

- ・西九州自動車道（佐々～松浦間）建設工事に伴う分布調査（佐世保市江迎町）

【県事業】

- ・主要地方道路福江富江線改良工事に伴う五島市中島遺跡緊急発掘調査
- ・国道251号線交通安全施設等整備工事に伴う島原市市畠中遺跡緊急発掘調査
- ・早岐川河川改修工事に伴う佐世保市早岐瀬戸遺跡範囲確認調査及び緊急発掘調査
- ・島原道路（出平・有明バイパス）建設に伴う試掘および範囲確認調査
- ・県庁跡地活用に伴う西役所跡範囲確認調査

また、保存目的調査としては、平成14年度から実施している壱岐市原の辻遺跡の範囲確認調査を長崎県埋蔵文化財センターが実施している。

2. 市町が実施した発掘調査の現状

市町が実施した開発対応の緊急発掘調査は、道路事業や農漁業基盤整備等の公共事業に伴うものが多くを占めている。島原地区や西彼地区では、圃場整備事業に伴う範囲確認調査や本発掘調査が依然多い。大村市や諫早市の郊外では、個人住宅建設や宅地造成、その他民間開発等への対応が多いほか、佐世保市等の市街地では、ガス・水道管敷設更新に伴う小規模な試掘確認調査が多い。

また近年は、自然エネルギー利用の気運の高まりから、離島部やその周辺海域において、広範囲に及ぶ規模の風力発電及び太陽光発電施設の建設が計画されている。計画地には、調査が十分に行われていない地域が含まれていることから、今後はこれら地域に所在する埋蔵文化財の把握と周知が急務である。松浦市では、海底ケーブル撤去工事に伴い鷹島海底遺跡の範囲確認調査を実施したが、水中遺跡など、多様な埋蔵文化財の保護に柔軟に対応できる調査方法や調査体制の整備が今後の課題の一つである。

開発に伴う発掘調査事例として、大村市で行われた宅地造成に伴う帶取遺跡の範囲確認調査では、弥生時代終末から古墳時代初頭の鍛冶工房跡が確認された。確認された鍛冶構造は、7m四方の隅丸方形の竪穴建物内に4つの鍛冶炉を備えたもので、県内では2例目の事例であり、鍛冶の技術や普及を考える上で重要な発見である。南島原市の内野貝塚では、道路改良工事のため発掘調査が行われ、弥生時代の遺構に伴い弥生土器、石器、貝類等が大量に出土している。弥生時代の貝塚の調査事例は本

県でも例が少なく、当時の生業文化を知るうえで稀少な事例となる。

保存目的調査では、壱岐市がカラカミ遺跡の範囲確認調査を行った。調査では、遺跡の北側に広がる道路状遺構や溝が確認されている。また、同時に行われた国柳遺跡の調査においても、周辺遺跡を結ぶ道路状遺構が確認されており、カラカミ遺跡とその周辺遺跡の実態解明に向けて今後の調査が期待される。平成29年から行われている平戸市三浦按針墓地遺跡の調査では、円形土坑墓3基が確認された。土坑内からは、白磁皿や軟質陶器皿、釘、ガラス製小玉等の副葬品のほか、いずれの土坑からも人骨が出土している。「長崎・天草地方の潛伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つである南島原市原城跡では、昨年度に統いて二ノ丸の調査が行われ、鉛製のメダイが出土している。原城跡の本丸以外で初めて出土したキリシタン遺物であり、史跡原城跡の全貌や島原・天草一揆の様相を知るうえで貴重である。

令和元年度 県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

編集機関	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集数
新幹線文化財調査事務所	竹松遺跡IV (上巻 旧石器・縄文編) (中巻 弓乳・古墳編) (下巻 古代・中世編)	竹松遺跡	新幹線文化財調査事務所調査報告書	11
	竹松遺跡V	竹松遺跡		12
長崎県埋蔵文化財センター	長崎県埋蔵文化財調査年報27 長崎県埋蔵文化財調査年報27 川端遺跡II	川端遺跡・太田遺跡・畠中遺跡・青神遺跡・原の辻遺跡・長貫A遺跡（隣接地）・原口B遺跡（隣接地）・津吹遺跡（隣接地）	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書	33
	原の辻遺跡	原の辻遺跡（芦辺高原地区）		34
				35

令和元年度 県内市町発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

編集機関	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集数
長崎市教育委員会	唐人屋敷跡	唐人屋敷跡	—	—
	上町遺跡	上町遺跡	—	—
島原市教育委員会	長貫A遺跡	長貫A遺跡	島原市文化財調査報告書	19
大村市教育委員会	黒丸遺跡	黒丸遺跡	大村市文化財調査報告書	44
平戸市教育委員会	市内遺跡発掘調査報告書XIX	里田原遺跡・蒲小川遺跡・飯良分校跡地・龜岡跡路・緑ヶ丘遺跡・横立遺跡	平戸市の文化財	75
松浦市教育委員会	一町田遺跡・段ノ上遺跡	一町田遺跡・段ノ上遺跡	—	9
	松浦市鷹島海底遺跡	鷹島海底遺跡・平野遺跡・日本山城跡・龍面庵石塔群	松浦市文化財調査報告書	10
壱岐市教育委員会	市史跡カラカミ遺跡8次：国柳遺跡1次：市史跡水田古墳群：山中遺跡	カラカミ遺跡・国柳遺跡・水田古墳群・山中遺跡	壱岐市文化財調査報告書	30
南島原市教育委員会	東石原遺跡	東石原遺跡	南島原市文化財調査報告書	17
	東大庄遺跡・中萩原遺跡	東大庄遺跡・中萩原遺跡		18
	山之内遺跡	山之内遺跡		19
	諏訪ノ上遺跡	諏訪ノ上遺跡		20

令和元年度 長崎県における発掘調査の履歴（1）

遺跡名	遺跡所在地	調査主体	調査開始日	調査終了日	調査原因	調査種別	面積(m ²)	備考
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	県(埋文)	2019/5/27	2019/5/31	河川	範囲	21.0	HAS201901
中島古跡	五島市	県(埋文)	2019/6/27	2019/9/20	道路	本調査	671.0	HKS201902
定免古墳遺跡	壱岐市	県(埋文)	2019/7/22	2019/7/26	保存目的の範囲内容確認調査	範囲	10.0	JKA201903
長崎西役所跡	長崎市	県(学文)	2019/8/16	2020/1/31	その他の開発(県庁舎兼地図用)	範囲	1016.0	NNY201905
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	県(埋文)	2019/10/23	2020/3/12	河川	本調査	722.0	HAS201906
壱岐瀬戸遺跡	島原市	県(埋文)	2019/11/7	2019/11/29	道路	本調査	150.0	HTN201907
原の内遺跡(園地跡区)	壱岐市	県(埋文)	2019/11/5	2019/12/27	保存目的の範囲内容確認調査	範囲	300.0	HAC201908
原の内遺跡(大川地区)	壱岐市	県(埋文)	2019/11/18	2019/12/27	保存目的の範囲内容確認調査	範囲	185.0	HAC201909
長賀貢遺跡(隣接地)	島原市	県(埋文)	2020/1/16	2020/1/31	道路	試掘	6.0	NNG201910
寺中古遺跡(隣接地)	島原市	県(埋文)	2020/1/14	2020/1/31	道路	試掘	18.0	JCA201911
原口遺跡(隣接地)	島原市	県(埋文)	2020/1/14	2020/2/21	道路	試掘	38.0	HGE201912
下原・高野遺跡(隣接地)	島原市	県(埋文)	2020/1/14	2020/1/31	道路	試掘	19.0	SGK201913
早崎古戸遺跡	佐世保市	県(埋文)	2020/3/11	2020/3/19	河川	範囲	20.0	HAS201914
久・保連遺跡	島原市	県(埋文)	2020/3/17	2020/2/21	道路	試掘	12.0	HNK201915
長崎城(櫻井遺跡・山王神社)	長崎市	長崎市	2019/6/21	2019/10/19	保存目的の範囲内容確認調査	範囲	5.0	
唐人屋敷跡(隣接地)	長崎市	長崎市	2020/2/26	2020/3/3	その他の開発(園地建設)	試掘	12.0	
桜町遺跡	長崎市	長崎市	2020/2/25	2020/3/9	その他の開発(隣地活用)	範囲	4.0	
金屋町古跡(隣接地)	長崎市	長崎市	2020/3/12	2020/3/31	その他の開発(隣地活用)	試掘	23.4	
深堀町古跡(隣接地)	長崎市	長崎市	2020/1/27	2020/1/27	その他の開発(急傾斜地削除工事)	範囲	14.0	
竹口古遺跡	佐世保市	佐世保市	2019/6/5	2019/6/6	住宅	範囲	4.0	
江永東古跡	佐世保市	佐世保市	2019/3/27	2019/4/19	個人住宅	範囲	6.8	
古野原遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2019/6/10	2019/6/12	その他の開発(防火水槽)	試掘	49.0	
江原の遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2019/4/25	2019/5/13	ガス・電気・配管等	試掘	12.7	
旧木戸古遺跡	佐世保市	佐世保市	2019/5/29	2019/5/31	その他の開発(既存公園再整備)	試掘	8.8	
竹口古遺跡	佐世保市	佐世保市	2019/10/25	2019/10/30	住宅	範囲	4.5	
早岐瀬戸遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2019/11/27	2019/11/29	店舗	試掘	34.0	
西田古遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2019/12/16	2019/12/25	その他の開発(買賣)	試掘	16.0	
竹口古遺跡	佐世保市	佐世保市	2019/12/18	2019/12/18	個人住宅	範囲	4.0	
竹辺遺跡	佐世保市	佐世保市	2020/3/2	2020/3/6	その他の開発(マンション建設)	範囲	4.5	
天神穴古遺跡	佐世保市	佐世保市	2020/1/24	2020/3/24	宅地造成	本調査	252.0	
竹口古遺跡	佐世保市	佐世保市	2020/1/28	2020/1/28	その他の開発(マンション建設)	本調査	3.6	
旧木戸古遺跡	佐世保市	佐世保市	2019/7/22	2019/7/24	その他の開発(既存公園再整備)	試掘	7.2	
島原城跡	島原市	島原市	2019/7/4	2019/7/9	住宅	範囲	6.0	
島原城跡	島原市	島原市	2019/11/25	2019/11/25	個人住宅	範囲	2.0	
津久遺跡	島原市	島原市	2019/10/8	2019/10/9	個人住宅	範囲	4.0	
寺中古遺跡	島原市	島原市	2019/9/26	2019/3/31	負担金無償徴収事務(費消等を含む)	範囲	16.0	
寺中城跡	島原市	島原市	2019/9/26	2019/3/31	負担金無償徴収事務(費消等を含む)	範囲	8.0	
類中遺跡	島原市	島原市	2019/8/24	2019/8/27	個人住宅	範囲	2.8	
一野遺跡	島原市	島原市	2020/3/5	2020/3/11	その他の開発(駐車場)	範囲	13.6	
島原城跡	島原市	島原市	2020/3/23	2020/3/30	個人住宅	範囲	9.0	
宗方井門遺跡	諫早市	諫早市	2019/4/18	2019/5/22	個人住宅	範囲	4.0	
原の城遺跡	諫早市	諫早市	2019/11/14	2019/12/17	その他の商業関係事業(改修)	範囲	8.0	
小堀の地点遺跡	諫早市	諫早市	2019/12/26	2020/2/18	宅地造成	範囲	4.0	
上野・原遺跡	諫早市	諫早市	2019/12/18	2020/2/20	住宅	範囲	4.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2019/5/14	2019/5/29	店舗・宅地造成	範囲	172.0	
冷泉遺跡	大村市	大村市	2019/6/3	2019/6/6	(バ)地物(宿泊工事新設)	範囲	24.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2019/4/18	2019/4/22	その他の建物(保育園)	範囲	12.0	
獣ノA遺跡(隣接地)	大村市	大村市	2019/4/25	2019/4/25	その他の施設(イターナンジ駐車場)	試掘	22.5	
外浦古遺跡	大村市	大村市	2019/6/24	2019/6/24	個人住宅	範囲	6.0	
古賀島古遺跡	大村市	大村市	2019/7/8	2019/7/9	住宅・個人住宅	範囲	12.0	
富の原遺跡	大村市	大村市	2019/7/16	2019/7/17	個人住宅	範囲	7.5	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2019/9/6	2019/9/10	住宅	範囲	30.0	
竹辺遺跡	大村市	大村市	2019/9/19	2019/9/19	個人住宅	範囲	7.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2019/9/26	2019/9/26	個人住宅	範囲	9.0	
大川遺跡	大村市	大村市	2019/10/25	2019/10/29	住宅	範囲	46.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2019/10/16	2019/10/23	宅地造成	範囲	36.0	
二城城下跡	大村市	大村市	2019/12/11	2019/12/11	個人住宅	範囲	14.5	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2019/10/12	2019/12/16	宅地造成	範囲	28.5	
上水計遺跡	大村市	大村市	2020/1/31	2020/1/31	個人住宅	範囲	4.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2020/2/26	2020/2/26	住宅	範囲	8.0	
帝釈院跡	大村市	大村市	2019/12/16	2020/2/21	宅地造成	範囲	95.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2020/2/27	2020/2/27	店舗	範囲	8.0	
立小路遺跡(隣接地)	大村市	大村市	2020/1/28	2020/1/30	宅地造成	試掘	45.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2020/3/5	2020/3/5	個人住宅	範囲	4.5	
富の原遺跡	大村市	大村市	2020/3/4	2020/3/16	住宅	範囲	84.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2020/3/19	2020/3/23	住宅	範囲	8.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2020/3/24	2020/3/24	その他の開発(駐車場)	範囲	8.0	
里田原遺跡	平戸市	平戸市	2019/4/18	2019/4/19	直道	範囲	5.0	
浦小川遺跡	平戸市	平戸市	2019/5/17	2019/5/17	その他の建物(公共施設)	範囲	25.0	
板良遺跡近傍(板良分校跡地)	平戸市	平戸市	2019/6/13	2019/6/14	その他の建物(消防閑係施設)	試掘	4.0	
龜岡城跡	平戸市	平戸市	2019/11/11	2019/11/15	親不知開発	範囲	3.8	
龜岡城跡	平戸市	平戸市	2019/8/21	2019/8/30	その他の建物(浄化槽設置)	範囲	4.0	

令和元年度 長崎県における発掘調査の履歴（2）

遺跡名	遺跡所在地	調査主体	調査開始日	調査終了日	調査原因	調査種別	調査面積 (m ²)	備考
縄ヶ丘遺跡	平戸市	平戸市	2019/9/20	2019/9/20	その他建物(食器)	範囲	5.0	
佐三浦接引島遺跡	平戸市	平戸市	2019/11/25	2019/12/25	保存目的の範囲内容確認調査	範囲	28.0	
横立遺跡	平戸市	平戸市	2019/9/17	2019/9/20	その他開発(土地造成)	範囲	4.0	
段ノ上遺跡	松浦市	松浦市	2019/5/27	2019/6/28	その他建物(小笠原丸を基盤とする施設工事)	本調査	19.0	
一町田遺跡	松浦市	松浦市	2019/5/27	2019/7/31	その他建物(小笠原丸を基盤とする施設工事)	本調査	25.0	
巣島海浜遺跡	松浦市	松浦市	2020/1/11	2020/1/12	ガス・電気・水道等	分か調査	800.0	
鶴居矢櫛	対馬市	マツシマ考古学研究会	2019/8/24	2019/9/2	学術調査	範囲	8.0	
永田12号墳	壱岐市	壱岐市	2019/5/9	2019/6/18	個人住宅	範囲	49.0	
山中道跡(隣接地)	壱岐市	壱岐市	2019/6/18	2019/8/30	その他開発(土地造成)	範囲	56.5	
カラカミ遺跡	壱岐市	壱岐市	2019/9/24	2019/11/21	保存目的の範囲内容確認調査	範囲	30.0	
岡棚遺跡	壱岐市	壱岐市	2019/5/7	2019/8/16	保存目的の範囲内容確認調査	範囲	80.0	
カラカミ遺跡	壱岐市	壱岐市	2019/10/23	2019/11/21	保存目的の範囲内容確認調査	範囲	20.0	
カラカミ遺跡	壱岐市	壱岐市	2019/7/1	2019/11/21	保存目的の範囲内容確認調査	範囲	50.0	
真正寺塚跡	雲仙市	雲仙市	2019/4/8	2019/4/9	個人住宅	範囲	1.7	
展望台遺跡	雲仙市	雲仙市	2019/6/6	2019/8/22	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	780.0	
横田地区	雲仙市	雲仙市	2019/4/15	2019/4/26	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	52.0	
横田地区	雲仙市	雲仙市	2019/5/28	2019/5/30	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	4.0	
朝日山遺跡	雲仙市	雲仙市	2019/6/19	2019/6/21	ガス・電気・水道等	範囲	4.0	
城ノ植城跡	雲仙市	雲仙市	2019/7/8	2019/7/12	その他開発	範囲	6.0	
大星敷遺跡	雲仙市	雲仙市	2019/8/26	2019/8/26	個人住宅	範囲	2.0	
伊古遺跡	雲仙市	雲仙市	2019/9/29	2019/11/30	その他建物	本調査	445.0	
山田糸里跡	雲仙市	雲仙市	2019/10/30	2019/11/1	道路	範囲	2.5	
山田糸里跡	雲仙市	雲仙市	2020/1/6	2020/1/15	個人住宅	範囲	3.8	
伊古遺跡	雲仙市	雲仙市	2019/12/19	2020/1/5	その他の開発	本調査	8.0	
真正寺塚跡	雲仙市	雲仙市	2020/2/18	2020/2/25	個人住宅	範囲	6.0	
栗山遺跡	雲仙市	雲仙市	2020/3/2	2020/3/5	個人住宅	範囲	1.6	
火船遺跡	雲仙市	雲仙市	2019/6/19	2020/3/5	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	6440.0	
土井下遺跡	雲仙市	雲仙市	2020/3/17	2020/3/23	その他の建物	範囲	4.0	
湖入島遺跡	南島原市	南島原市	2019/7/4	2019/7/11	その他の開発(太陽光パネル設置)	範囲	4.0	
寶台寺跡	南島原市	南島原市	2019/10/15	2019/11/8	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	32.0	
東新堂原遺跡	南島原市	南島原市	2019/10/30	2019/11/11	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	8.0	
野中C遺跡	南島原市	南島原市	2019/11/29	2019/12/17	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	8.0	
野中B遺跡	南島原市	南島原市	2019/9/11	2019/12/16	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	44.0	
寶台寺跡	南島原市	南島原市	2020/1/21	2020/2/28	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	599.0	
内野貝塚	南島原市	南島原市	2019/12/9	2020/2/28	道路	本調査	288.0	
山ノ寺木根遺跡	南島原市	南島原市	2019/7/12	2019/7/29	その他の開発(駐車場)	範囲	8.0	
有馬美奈高枝跡跡地	南島原市	南島原市	2019/10/8	2019/10/21	その他の開発(タブレット)	試掘	8.0	
原城跡(隣接地)	南島原市	南島原市	2020/3/9	2020/3/17	その他の開発(世界遺産開発施設)	試掘	24.0	
原城跡	南島原市	南島原市	2020/2/14	2020/3/26	保存目的の範囲内容確認調査	試掘	88.0	
光明寺聖祖西側遺跡(隣接地)	南島原市	南島原市	2020/3/17	2020/3/24	道路	範囲	8.0	
野中A遺跡	南島原市	南島原市	2019/7/9	2019/9/12	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	60.0	
東新堂原遺跡	南島原市	南島原市	2020/3/9	2020/3/13	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	12.0	
丸尾遺跡	新上五島町	新上五島町	2020/2/17	2020/2/19	その他建物(防波堤等)	範囲	12.0	
大田遺跡(隣接地)	西海市	西海市	2019/7/29	2019/8/20	その他の建物(消防施設)	範囲	88.0	県支援(県埋没)
平舟遺跡	西海市	西海市	2019/8/22	2019/8/22	その他の建物(消防施設)	範囲	8.0	県支援(県埋没)
正興寺跡遺跡(隣接地)	佐々町	佐々町	2019/11/5	2019/11/21	その他の建物(保育所建設)	試掘	16.0	県支援(県埋没)
末永遺跡(隣接地)	佐々町	佐々町	2019/11/7	2019/11/25	宅地造成	試掘	16.0	県支援(県埋没)

II. 本県が主催する文化財保護に関する研修事業

1. 長崎県市町文化財保護行政主管課長会議・担当者会議

目的 市町文化財保護行政主管課長及び担当者に対し、文化財保護及び活用に関する新たな情報や専門的知識を習得する場を提供するとともに、改正文化財保護法に基づいて策定中の長崎県文化財保存活用大綱や文化財保存活用地域計画作成に関する新たな情報を提供し、今後の県・市町の取組についての情報共有を行い、円滑な推進を図る。

期日 令和元年 8月 27 日（火）

会場 長崎県庁行政棟 1階大会議室C（長崎市尾上町3番1号）

参加者 各市町文化財保護主管課長及び担当者

県関係各課長および担当者（関係機関を含む） 計 50名

内容 (1) 開会

(2) 文化財管理業務について（長崎県教育庁学芸文化課）

(3) 講演「文化財保存活用地域計画の目指すところ」

（文化庁地域文化創生本部 文化財調査官 岡本公秀）

(4) 文化財保存活用大綱等について（長崎県教育庁学芸文化課）

(5) 協議：大綱及び地域計画作成にあたっての意見交換

(6)閉会

2. 開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修

目的 (1) 開発部局担当者に文化財に対する理解を深めてもらい、その取り扱いについて具体的な情報を提供することにより、円滑な文化財行政を推進する。

(2) 文化財主管課担当者に基礎的な知識を習得する場を提供し、文化財の保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどの理解を深めさせ資質の向上を図る。

期日 令和元年 5月 16 日（木）・17 日（金）

会場 長崎県農協会館 7階 701 会議室及び松藤プラザ「えきまえ」いきいきひろば3階 5号室

参加者 • 県及び市町開発部局担当者 計 27名

• 県及び市町文化財担当者（実務経験 3年未満を主体） 計 39名



研修風景



ディスカッション風景

- 内 容**
- ・埋蔵文化財について（長崎県埋蔵文化財センター）
 - ・埋蔵文化財保護行政と埋蔵文化財包蔵地における開発に係る諸届について（長崎県教育庁学芸文化課）
 - ・事例発表「島原城の石垣修復」（島原市水道課 森宏伸）
 - ・講演「長崎県の文化財建造物」((元)長崎県教育庁学芸文化課 初山新二)
 - ・長崎県の文化財保護情勢（長崎県教育庁学芸文化課）
 - ・文化財保護法の改正と文化財大綱・地域計画の策定について（〃）
 - ・指定・選定文化財の事務手続きについて—現状変更の手続きを中心に—（〃）
 - ・埋蔵文化財の保護と事務手続きについて（〃）
 - ・文化財助金の適正な執行について（〃）
 - ・事例発表「埋蔵文化財の活用と学校教育—どっとこい！高島・宮の本遺跡—」（佐世保市教育委員会文化財課 松尾秀昭）
 - ・事例発表「文化的景観を活用した地域づくり—国選定重要文化的景観「小値賀諸島の文化的景観」の事例一」（小値賀町教育委員会 平田賢明）
 - ・グループ・ディスカッション（文化財の保護・活用に対する現状と課題 ①未指定文化財の調査・把握について、②文化財の保護・活用に関する住民の理解を高めるには、③文化財の保存・活用の推進体制について）

3. 埋蔵文化財担当者専門技術研修

目 的 遺跡から出土する「石器・石製品」の基礎的な知識および調査方法の研修を行うことで、埋蔵文化財専門職員としての資質の向上を図る。

期 日 令和元年 12 月 20 日（金）

会 場 東彼杵町総合会館教育センター研修室 3・4

講 師 川道寛（長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所）

参加者 県内埋蔵文化財担当者 17 名

- 内 容**
- ・講義「長崎県の石器総論～石材の産地と流通～」
 - ・講義「長崎県の石器～旧石器から弥生時代まで～」
 - ・遺物等資料実見（東彼杵歴史民俗史料館蔵資料及び持ち込み資料）
 - ・意見交換



講義風景



遺跡出土石器資料実見意見交換会

III. 長崎県埋蔵文化財センターの事業

1. 調査研究事業

長崎県埋蔵文化財センターでは、原の辻遺跡調査研究事業として遺跡内の環濠や旧地形等の状況調査を目的に平成14年度から国庫補助を受けながら範囲確認調査を実施している。調査は10年ごとに調査計画を立て行っており、現在行っている調査計画は、遺跡の北東側から南東側にかけての遺跡の広がりや遺構の状況を確認するために平成24年度から実施しているものである。

令和元年度は、原の辻遺跡北側の閑縁地区と、遺跡の南側丘陵部の大川地区で発掘調査を実施した。閑縁地区は、昭和29年度東亜考古学会により調査が行われ、弥生時代中期前葉から中葉にかけての甕棺墓や石棺墓、土壙墓による列状に配置された墓域が検出された。その後、平成7年度に圃場整備に伴い発掘調査が再度実施され、さらに墓域が広がっていたことが確認された地区である。今回の調査区はその西側の隣接地にあたり、遺構のさらなる広がりを確認するために3箇所の調査区を設定し掘り下げを行った。掘り進めると圃場整備による造成土が厚く堆積しており、1区と3区で約2m下に弥生時代の遺物包含層が確認されたものの掘り広げることが困難であると判断し、記録を取り現状復旧を行った。遺物包含層からは弥生土器をはじめ、磨製石剣や陶質土器などの小片が出土した。

大川地区は平成6年度と平成10年度の調査で古代（8世紀末から10世紀中ごろ）の白磁や青磁などの貿易陶磁器が出土しており、近隣に官衙跡の存在が推測されているところである。現況は荒廃した水田で平坦な地形ではあったが、発掘調査を進めると近世以降の通路や水路と思われる痕跡が確認された。調査区南側の丘陵端部側には古代から中世にかけての遺物包含層が確認され、青磁や土師器などが出土した。また表土が浅いところでは黄褐色の粘質土層があり、旧石器時代の黒曜石剥片などが出土している。

2. 保存処理事業

県保有資料の木製品21点、金属製品157点、土器3点、籠甲及びセルロイド製品6点の計187点に関して国庫補助事業を活用して保存処理を行った（表1）。木製品はPEG（ポリ・エチレン・グリコール）含浸処理法、トレハロース含浸処理法、真空凍結乾燥法により保存処理を実施した。金属製品は主に鉄製品と銅製品に大別されるが、いずれも透過X線撮影等事前調査を実施したのち、錆取り作業⇒脱塩処理（銅製品はBTA（ベンゾ・トリ・アゾール）処理）⇒アクリル樹脂含浸強化処理⇒接合・修復を実施した。土器や籠甲はアクリル樹脂含浸強化処理を、セルロイド製品は脱酸素剤と共に密閉パックした。

また県内市町が保有する資料に関しても所定の申請を行えば保存処理施設の利用を許可しており、令和元年度は6市からの利用があり計408点の保存処理を行った（表2）。

出土遺物の保存処理に伴う事前調査機器（精密分析機器）も保有し、金属製品の材質分析や構造調査等も行っている。外部利用も受け入れており、令和元年度は6機関が、透過X線撮影装置、蛍光X線分析装置、走査型電子顕微鏡などを利用した（表3）。

表1 令和元年度国庫補助事業による保存処理一覧

◆木製品：21点

遺跡名	所在地	調査番号	処理点数	処理方法	備考
原の辻遺跡	壱岐市	201423	2	PEG含浸処理	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第11集
竹松遺跡	大村市	201506	1	PEG含浸処理	—
原の辻遺跡	壱岐市	201513	6	リバーオン浸透処理	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第20集
原の辻遺跡	壱岐市	201610	11	PEG含浸処理	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第27集
中島遺跡	五島市	NK133	1	PEG含浸→真空凍結乾燥	長崎県文化財調査報告書第133集

◆金属製品：157点

遺跡名	所在地	調査番号	処理点数	処理方法	備考
野口前遺跡	川棚町	201421	3	透過X線撮影 ↓ 鋸取り・リーピング	—
原の辻遺跡	壱岐市	201423	15	脱塩・BTB処理 ↓	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第11集
川端遺跡	大村市	201801	16	—	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第31集
寺中A遺跡	島原市	201807	1	接合 ↓	—
早岐漸戸遺跡	佐世保市	201901	15	樹脂含浸強化	長崎県文化財調査報告書第162集
妙泉寺古墳	壱岐市	NK156	107	—	—

◆その他の材質：9点

遺跡名	所在地	調査番号	処理点数	処理方法	備考
中島遺跡	五島市	201902	3	土器：777号樹脂強化	—
長崎奉行所跡	長崎市	NK183	4	甕甲：777号樹脂強化 760号：BP処理	長崎県文化財調査報告書第183集

総計：187点



処理前

透過X線画像

処理後

金属製品の保存処理例「釜蓋5号墳出土の器」

表2 県内市町保存処理点数一覧

市町名	利用機関	遺跡名	種別	点数
長崎市	出島復元整備室	出島和蘭商船跡ほか	木製品	23
佐世保市	佐世保市文化財課	早岐漸戸遺跡、大刀洗遺跡、武辺城跡	木製品	13
壱岐市	壱岐市社会教育課	カラカミ遺跡、百田頭古墳群、釜蓋古墳群ほか	金属製品	18
西海市	西海市教育委員会	面高A地区	金属製品	152
雲仙市	雲仙市教育委員会	火箱遺跡	土器	3
南島原市	南島原市教育委員会	浦田遺跡	金属製品	1
			金属製品	1
			土器	173
			本製品	24

総計408点

表3 令和元年度精密分析機器外部利用一覧

利用時期	利用者	利用内容	使用機器
2019年4月	新幹線文化財調査事務所	レプリカSEM法	走査型電子顕微鏡
2019年5月	新幹線文化財調査事務所	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2019年6月	奈良文化財研究所	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2019年7月	唐津市教育委員会	金属製品の調査	透過X線撮影装置、蛍光X線分析装置
2019年8月	唐津市教育委員会	ガラス製品の分析等	蛍光X線分析装置
2019年10月	雲仙市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2020年1月	西海市教育委員会	金属製品の保存処理・黒曜石の産地推定	透過X線撮影装置、蛍光X線分析装置
2020年1月	雲仙市教育委員会	鼠骨の保存処理・黒曜石の産地推定	透過X線撮影装置、蛍光X線分析装置
2020年3月	平戸市教育委員会	ガラス製品の分析	蛍光X線分析装置

3. 教育普及事業

(1) オープン収蔵展示

調査研究の成果を紹介するため、併設する壱岐市立一支国博物館のオープン収蔵庫（高さ 5m のガラス張りで、キッズこうごく研究所および博物館 2 階より内部を見ることができる収蔵庫）を活用して、遺物の展示を行っている。令和元年度は以下の 3 つのテーマで遺物展示を行った。

第1回目『発掘された竹松遺跡－浮かび上がる大村の軌跡－古代～江戸時代編』は、大村市竹松遺跡で確認された縄文時代から江戸時代初頭までの遺構や出土品を前期・後期に分けて紹介する展示の後期展示で、古代から江戸時代までの出土品 113 点を遺構写真などのパネルとともに展示了。

第2回目『長崎県の埋蔵文化財展』では、長崎県埋蔵文化財センター開設 10 周年を迎えることを記念して県教育委員会が発掘調査に関わった長崎県内の主要な遺跡を、出土品 230 点と調査当時の写真などのパネルとともに紹介した。

第3回目『長崎県埋蔵文化財センターのあゆみ展』では、センターがこれまでに行った発掘調査や出土品の精密分析等で判明した事実などを、出土品やパネル、精密分析機器等を展示し開設 10 年間のあゆみを紹介した。



『発掘された竹松遺跡－浮かび上がる大村の軌跡－古代～江戸時代編』展示風景



『長崎県の埋蔵文化財展』展示風景

令和元年度 オープン収蔵展示

テーマ	主な展示品	期間
『発掘された竹松遺跡－浮かび上がる大村の軌跡－古代～江戸時代編』	古代: 緑釉陶器、墨書・刻書土器、絵画土器、石器 中世: カムイイヤキ、貿易陶磁、ミニチュア石鍋 近世: 煙管、近世墓から出土した初期伊万里の小皿など	令和元年7月5日(金) ～ 令和元年10月20日(日)
『長崎県の埋蔵文化財展』	石器(百花台遺跡: 霧島市)、装飾石製品(黒丸遺跡: 大村市)、腕輪状木製品(原の辻遺跡: 島原市)、陶質土器(上福原遺跡: 霧島市)、石弾(鳯島海底遺跡: 松浦市)、色絵磁器(万才町遺跡: 長崎市)など	令和元年10月25日(金) ～ 令和2年2月24日(月・祝)
『長崎県埋蔵文化財センターのあゆみ展』	勾玉、三韓系瓦質土器、楽浪系土器、丹塗リ土器(原の辻遺跡: 島原市)、陶質施釉瓦(諫早家御屋敷跡)、クレーバイブ(出島和商館跡: 長崎市)、薪付桥(ぬ島城跡: 大村市)、木簡(長崎奉行所跡: 長崎市)、甕(釜蓋古墳: 島原市)など	令和2年2月28日(金) ～ 令和2年6月28日(日)

(2) 情報誌

一般向けの情報誌『長崎県の埋蔵文化財』をA4サイズのフルカラー全8ページで発刊した。これまでに県教育委員会が発掘調査に関わった県内の代表的な遺跡を掲載した。図書館や教育機関、一支国博物館及び埋蔵文化財センターへの訪問者などに配布し、ホームページにも掲載している。



情報誌

(3) ホームページおよびFacebookの公開更新

ホームページ (<http://www.nagasaki-maibun.jp/>) には『施設案内』のほか、近年の発掘成果を紹介している『発掘情報』、オープン収蔵展示や教育支援事業などを紹介する『インフォメーション』、刊行物やキッズこうごく研究所のイベントなどを紹介する『イベント情報』、収蔵している出土品や精密分析機器の『施設利用』に関する申請書などを掲載している。また平成26年から開設しているFacebookページ (<http://fb.com/1461241530809034>) では、多くの写真を用いて親しみやすい情報の発信に取り組んでいる。

(4) 体験学習

『精密分析機器で調べてみよう』と題し、主に小学生を対象とした体験学習を夏休み期間中に10回行っている。子どもたちに分かりやすく、また興味を示すようなアイデアを盛り込み、各機器の特性を活かした工夫をこらしている。身近なものを、精密機器を用いて観察、分析することで得られる情報から、埋蔵文化財センターの仕事内容や成果の普及活動に努めている。令和元年度は10回の開催で計175名の参加があった。



顕微鏡を使って身近なものを拡大観察

(5) バックヤードツアー

埋蔵文化財センターに併設されている一支国博物館のイベントとして、毎月第3土曜日にバックヤードツアーを実施している。普段立ち入ることができないセンターの保存処理施設や出土品収蔵庫等を見学するツアーで、主にセンター職員が対応している。令和元年度は11回の開催（令和2年3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）で、計89名の参加があった。



木製品保存処理室の案内

(6) 資料貸出・閲覧・掲載許可

収蔵している出土品等の貸出や資料閲覧、写真等掲載に関して、所定の申請を受け、使用目的等適切であれば許可している。令和元年度は出土品の資料貸出3件、資料閲覧6件、写真掲載許可申請11件、その他テレビ撮影等2件に関して対応した。韓国公州市石壮里博物館では、2019年5月3日から2020年2月28日にかけて『海を越えた先史人たち～黒曜石の道～』と題して、韓国国内及び北海道と長崎県から出土した黒曜石資料が展示された。



石壮里博物館での黒曜石の展示

(7) センター開設10周年記念イベント

埋蔵文化財センター開設10周年を記念して、特別企画展「長崎県の埋蔵文化財」を長崎県庁1階エントランスで実施した。原の辻遺跡や鷹島海底遺跡など長崎県内の代表的な遺跡のパネルや出土遺物の展示と、センターの施設・設備の紹介や精密分析機器の実演などを行い、5日間で約370名の方に見学いただいた。また、3月にはセンターにおいて小学生を対象としたイベント「まいぶんキッズ大集合！」を開催する予定で準備を進めていたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、中止することとなった。



長崎県庁1階特別企画展の様子



イベントのチラシ

(8) 長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援

本センターでは、高校生の離島留学制度で設定された長崎県立壱岐高等学校東アジア歴史・中国語コースの授業支援を行っている。支援は1年生のコース生全員と、2年生の歴史学専攻生の授業の一部を担当しており、埋蔵文化財の公的な専門機関が年間を通して高校の授業を担当する例は全国でも稀である。令和元年度は、1年生の「歴史学入門」を10回、2年生の「考古学入門・生活文化史」を35回実施し、特に2年生に対しては奈良大学と奈良県が主催している「歴史フォーラム」に研究論文を応募するための研究支援を中心に行った。研究支援は、1年次に考古学の基礎知識の講義を先行して行い、2年次の9月まで通常の授業時間および放課後の時間帯に論文作成ための指導を行った。その結果、「未解明の古墳時代の集落に迫る～壱岐・車田遺跡とその遺物から見た巨石古墳との関係～」



フィールドワークの様子



実測指導



発掘調査の様子



奈良大学「歴史フォーラム」特別賞受賞

学校設定科目の授業に関するこ

月	日	曜	歴史学入門(1年)		考古学入門・生活文化史(2年)		課題研究(3年)	
			授業名	担当者	授業名	担当者	授業名	担当者
4	17	水			考古学研究法①(講義)テーマ決め	吉澤・長岡		
	24	水	博物館・センター見学(見学)	片野・吉澤・長岡				
5	31	水			考古学研究法②(演習)テーマワーク	吉澤・長岡		
	22	水			考古学研究法③(演習)整理作業	吉澤・長岡		
	29	水			考古学研究法④(演習)整理作業	吉澤・長岡		
6	12	水			考古学研究法⑤(演習)整理作業	吉澤・長岡		
	19	水	東アジアの地誌(講義)	吉澤・長岡	東アジアの地誌(講義)	吉澤・長岡		
7	3	水	東アジアの歴史(講義)	吉澤・長岡	東アジアの歴史(講義)	吉澤・長岡		
	10	水			考古学研究法⑥(演習)整理作業	吉澤・長岡		
	17	水			考古学研究法⑦(演習)整理作業	吉澤・長岡		
			歴史派株(香崎)	吉澤・長岡				
8	21	水			考古学研究法⑧(演習)論文作成	吉澤・長岡		
	27	水			考古学研究法⑨(演習)論文作成	吉澤・長岡		
9	11	水			考古学研究法⑩(演習)論文作成	吉澤・長岡		
	23	水	原の辻道路特徴(講義)	寺田・長岡	原の辻道路特徴(講義)	寺田・長岡		
11	13	水	原の辻道路発掘体験(実習)	吉澤・長岡	原の辻道路発掘体験(実習)	吉澤・長岡		
	20	水	原の辻道路発掘体験(実習)	吉澤・長岡	原の辻道路発掘体験(実習)	吉澤・長岡		
12	15	日	コース発表会		コース発表会		コース発表会	
13	15	水	考古学研究法⑪(講義)テーマ決め	吉澤・長岡				
	22	水	考古学研究法⑫(実習)テーマワーク	吉澤・長岡				
	29	水	考古学研究法⑬(実習)整理作業	吉澤・長岡				

体験入学等に関するこ

月	日	曜	行事名	担当者	行事内容
4	6	火	センター・香崎高連絡協議会	室長・長岡	自己紹介、新年度のコース運営等の協議・調整
8	24	土	第1回コース体験入学	長岡	コース授業の概要説明、一支国博物館・埋文センター案内
11	9	日	第2回コース体験入学	長岡	コース授業の概要説明、一支国博物館・埋文センター案内
2	10	木	センター・香崎高連絡協議会事前打ち合わせ	室長・吉澤・長岡	連絡協議会前の事前打ち合わせ
	27	木	コース3生表敬訪問	課長・所長・室長・長・吉澤・長岡	所長・授業に関わった職員との懇親会

を研究論文として提出し、3位にあたる奈良大学創立50周年特別賞を受賞した。また、今後の研究論文作成につなげるために、7月の3日間、1年生全員と2年生の歴史専攻生とで古代から中世にかけての遺物包含地である定光寺前遺跡の発掘調査をセンターの職員とともに実施した。

(9) 学校教育支援「埋文MAIBUN学びのサポート」

本センターは、「埋文MAIBUN学びのサポート」という学校教育支援を行っている。これは、センター職員の高い専門性や、石器・土器など実際の遺物、さまざまな機器を活用したセンターでの学習等を通して、考古学への児童生徒の興味・関心を高めるほか、幅広い知識や技能の習得をサポートすることを目的として実施している。令和元年度は、施設見学で11件417人の利用があった。

日付	学校名	内容	人数
5月9日	西宮小学校	博物館およびバックヤードの見学	18
5月21日	初山小学校	バックヤードの見学	6
6月21日	長崎県高等学校特別支援学校 教育研究会地理公認会員会	バックヤードの見学	60
7月3日	大村市立三浦小学校	バックヤードの見学	29
7月23日	橋本町香取交流ツアーハウス	バックヤードの見学	17
7月29日	日本の宝「まつ文支流事業」	博物館およびバックヤードの見学	53
7月31日	対馬高校	博物館およびバックヤードの見学	59
8月7日	香取市小中学校教育研究会社会研究部	博物館およびバックヤードの見学	14
8月20日	鶴伏小学校	博物館およびバックヤードの見学	17
8月24日	香取高校第1回体験入学	バックヤードの見学	44
10月16日	郡山中学校	バックヤードの見学	100

(10) 現地説明会・発掘体験

①中島遺跡

本調査期間中の8月25日(日)、発掘調査状況を公開するための現地説明会を開催した。不安定な天候のなか約50名の参加者があり、遺跡パネルや出土遺物の展示解説をはじめ、調査区での状況説明や発掘体験を実施することができた。参加者が磨石や台石等の石器に触れながら展示解説を行ったこともあり、質問が多く、地元の遺跡について理解を深めることができた。発掘体験では大人も子どもも熱中し、土器片が見つかるたびに歓声が上がっていた。



発掘体験の様子

②早岐瀬戸遺跡

佐世保市早岐瀬戸遺跡では発掘調査中の12月21日(土)に現地説明会を実施した。現場での説明とブレハブでの出土遺物の公開を午前・午後の2回に分けて行い、合わせて約150名の参加があった。調査地周辺の住民を中心に、小学生から高齢者までと幅広い年齢層の参加を得た。また、現地説明会のほかに1月21日(火)に近隣の早岐小学校児童(6年生・約100名)の現場見学を実施した。



現地説明会の様子

4. 東アジア考古学研究事業

(1) 東アジア国際シンポジウムの開催

東アジア考古学研究室は本県が古代から東アジア交流の要衝として独特の文化を育んできた歴史的経緯を踏まえ、東アジア的視点に立った考古学研究を推進しその成果を発表している。令和元年度は「魏志倭人伝の中の倭と韓 一島丸鮮卑東夷伝にみる東アジア交流」をテーマとしてシンポジウムを開催した。

○主 催 長崎県埋蔵文化財センター

○共 催 長崎歴史文化博物館、壱岐市立一支国博物館

○後 援 長崎市教育委員会、壱岐市教育委員会、魏志倭人伝のクニグニネットワーク参加自治体、教育委員会、朝日新聞社、長崎新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、壱岐新聞社、(株)壱岐新報社、NHK長崎放送局、KTNテレビ長崎、N B C 長崎放送、N C C 長崎文化放送、N I B 長崎国際テレビ、壱岐ビジョン株式会社

○日 時 長崎会場：令和元年10月19日（土）13:00～17:00

壱岐会場：令和元年10月26日（土）14:00～15:30

○場 所 長崎会場：長崎県庁行政棟1階大会議室

壱岐会場：壱岐市立一支国博物館3階多目的ホール

○参加者 245名

○内 容

〈長崎会場〉

基調講演 「島丸鮮卑東夷伝にみる考古学」

九州大学名誉教授・海の道むなかた館長

西谷 正

講演1 「魏志倭人伝における往来関係記事と一支国」

長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室

主任文化財保護主事

古澤 義久

講演2 「三韓時代韓半島南部と東アジア社会の変動

—『三国志魏書東夷伝』韓・辰韓・弁辰条を中心に—」

韓国・釜山博物館 文化財調査チーム学芸研究士

安 海成

パネルディスカッション「環濠集落にみる東アジア交流」

コーディネーター 朝日新聞大阪本社編集委員

中村 俊介

発表 「クローズアップ高島」

佐世保市立相浦小学校高島分校児童3名

〈壱岐会場〉

講演1 「魏志倭人伝における往来関係記事と一支国」

長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室

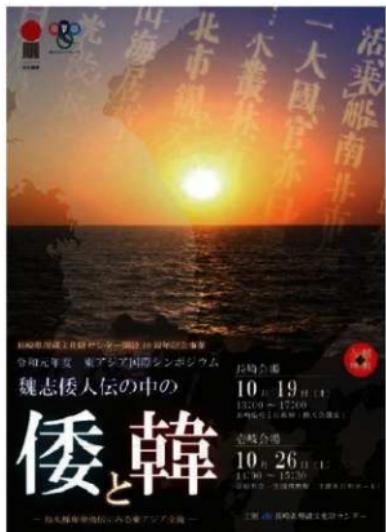
主任文化財保護主事

古澤 義久

講演2 「壱岐における交流の実態—魏志倭人伝に記された一支国の世界—」

壱岐市教育委員会社会教育課係長

松見 裕二



シンポジウムチラシ



パネルディスカッション（長崎会場）



講演（島根会場）

（2）東アジア諸国の研究機関との連携

平成 27 年 5 月に長崎県埋蔵文化財センターは韓国・釜山博物館と友好交流機関協定を締結し、相互に職員を派遣し、発掘調査に参加したり、共同で資料調査を実施している。長崎県と釜山市では相互に関連のある資料が出土しているが、日韓の研究者双方の目で、同時に検討することで、交流の実態が明らかになってきた。また、中国東北地方（主に遼寧省・吉林省）を中心とした研究機関とも連携を深めている。

□韓国釜山博物館

○長崎訪問

日時：令和元年 5 月 14 日～16 日

内容：共同研究、博物館及び老岐島内視察

○韓国訪問

日時：令和元年 9 月 23 日～26 日

内容：共同研究、東三洞貝塚展示館・国立海洋博物館等視察

□東北師範大学（考古学）

○長崎訪問

日時：令和元年 10 月 29 日～31 日

内容：出土遺物検討、一支国博物館およびバックヤード紹介、老岐島内視察

○中国訪問

3月に予定したが、新型コロナウィルスの影響のため中止



東三洞貝塚展示館 展示施設



釜山博物館 学術交流

(3) 長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第10号の刊行

本センターの研究紀要是、開所以来毎年刊行を重ねている。第10号では次の11本の論考を掲載した。

〔内容〕

川道寛・柳田裕三・片多雅樹「佐世保市針尾島における黒曜石原産地」

長岡康孝「景観から見た原の辻遺跡への道」

古澤義久「附 壱岐市芦辺町青島遺跡 2019年度表探資料」

寺田正剛「松浦市太田遺跡出土の円形浮文のある大型壺について」

—長崎県北部の弥生時代遺跡についての一考察—

大多和泰熙・亀井琢磨・清川智希・筑後裕哉・平田太輝・松尾泰地・村上直哉・本田あかり

(長崎県立壱岐高等学校 東アジア歴史・中国語コース歴史学専攻2年生)

「未解明の古墳時代の集落に迫る—壱岐・車出遺跡とその遺物から見た巨石古墳との関係—」

村串まさか・中井泉・片多雅樹・田中聰一

「壱岐島内の古墳を対象とした出土ガラス玉の化学組成分析」

岩佐朋樹「壱岐市釜蓋2号・5号墳出土金属製品未報告資料について」

野澤哲朗・新井実和・諫早市指定文化財「唐古のくり舟」の保存処理に関する報告

松尾秀昭「滑石石鍋の利用についての研究」

宮崎貴夫「長崎市万才町遺跡の再検討」

古澤義久「長崎奉行所出土銭幣文磁器について」

長岡康孝「埋蔵文化財センターによる壱岐高校支援」

IV. 令和元年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要

1. 早岐瀬戸遺跡【遺跡調査番号：201901・06・14】

所在地	佐世保市早岐2丁目17-10他	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	早岐川河川改修工事	報告書	令和3年度刊行予定
【調査番号：201901】調査面積	21 m ²	調査期間	令和元年5月27日～5月31日
調査区分	範囲確認調査	処置	本調査
【調査番号：201906】調査面積	722 m ²	調査期間	令和元年10月23日～令和2年3月12日
調査区分	本調査	処置	調査後工事（一部調査継続）
【調査番号：201914】調査面積	110 m ²	調査期間	令和2年3月11日～3月19日
調査区分	範囲確認調査	処置	本調査

立地

早岐瀬戸遺跡は佐世保市南部の早岐地区に所在する。早岐地区は大村湾と佐世保湾を結ぶ早岐瀬戸を通じた水運と松浦と彼杵を結ぶ南北の陸路、内陸の三川内・佐賀方面を結ぶ東西の陸路の結節点となる交通の要衝として栄えた地域である。調査区周辺は早岐地区を貫流する早岐川により形成された沖積地で、また1653（承応2）年に平戸藩が埋立を行っている。遺跡は早岐瀬戸の最も幅が狭まる付近に位置し、南西側は



早岐瀬戸に、東側は早岐川に面している。201901、201906調査では遺跡北側の早岐川屈曲部付近の、201914調査では早岐瀬戸沿いの調査を実施した。

調査

201901、201906調査では遺跡北側の早岐川屈曲部付近の範囲確認調査およびその結果を受けて調査対象地のうち西側722m²の本調査を、201914調査では早岐瀬戸沿いの範囲確認調査を実施した。

【201901】

調査は対象地内に西側からTP1、TP2、TP3の3箇所の調査坑を設けて行った。TP1では建物礎石の可能性のある石列と基盤層と考えられる風化岩を掘り込む土坑・ピットを確認した。遺物は近世から近代の陶磁器が出土している。TP2では明治39年の火災に伴うと考えられる灰の堆積層の下で建物礎石の可能性のある石材や、瓦廐土坑、横木を伴う柱状の木製構造物を確認した。遺物は近世陶磁器、瓦片、木製品が出土している。TP3では明治39年の火災時に埋没したと考えられる石組の構造遺構や、江戸時代の火



【201901】TP3 溝状造構完掘及び東壁土層断面状況

災に伴うと考えられる火災整地層を確認した。遺物は近世陶磁器が出土している。

【201906】

201901 調査の対象地西側部分について本調査を実施した。遺物は三川内焼を中心に多量の近世陶磁器・瓦片のほか木製品、寛永通宝などの古銭、金属製品、須恵器や弥生土器、黒曜石などが出土している。遺構は合計 700 基以上のピット、土坑、溝状遺構、石列、井戸跡、道路跡などが確認され、そのほとんどは近世の遺構と考えられる。ピットの中には柱材が残っているものや、ピット壁面に瓦をめぐらせたものもある。調査区南西部では焼土と灰色粘質土が互層に堆積している状況が確認できた。被熱したものも含む多量の陶磁器・瓦片と焼土・炭化物が出土する大型の土坑も複数確認されており、火災後の片付け・整地に伴うものと考えられる。



【201906】木製構造物横木検出状況

また、調査区の東端では木製構造物が確認されている。範囲確認調査時に TP2 壁面で一部確認されていたもので、直径 40 ~ 50cm の柱材の下部に穴を開けて横木を通している。横木の上下では大型の平石を検出した。横木上の石は重石として、横木下部の石は周辺地盤が軟弱なことから沈下を防ぐための構造として設置されているものと考えられる。木製構造物近くでは石組の炉跡 2 基も検出されており、あわせて醸造関連遺構と考えられ、木製構造物は搾り工程に使用される搾り機の下部構造であると考えられる。なお調査期間の制約によりこの木製構造物は現状で埋め戻しをおこない、隣接地の本調査実施時に継続して調査を行う予定である。

【201914】

早岐瀬戸に面した地区に 7 箇所の調査坑を設けて調査を行った。いずれの調査坑でも近世陶磁器が出土しており、また 7 箇所のうち 4 箇所では石列、ピット、土坑、炉跡などの遺構が検出された。調査対象地北側に設けた調査坑 2 箇所では風化岩盤層まで掘削を行った。風化岩盤上には礫混じり黒色土または砂層を挟んで貝殻片を密に含む黒色土が堆積しており埋立土と考えられる。またもっとも瀬戸沿いに設定した調査坑 2 箇所では現代の造成と考えられる礫混じり砂質土の下で礫混じりの黒色土が堆積しており、黒色土中からは近世陶磁器が出土している。現地表下 2.3m ほど



【201914】TP6 遺構検出状況

まで重機による掘削を行ったが地山には到達していない。現代の造成土と礫混じり黒色土の境付近から湧水が始まっており礫混じり黒色土も埋立に伴う堆積と考えられる。この黒色土に混じる礫が干拓堤防外の捨石である可能性もあることから堤防の有無を確認する調査坑を設定したが、堤防は確認できなかった。ただし調査坑の一部で海に向かって落ち込む層が確認されており、埋立の痕跡の可能性がある。早岐瀬戸遺跡周辺の埋立が一度ではなく複数回にわたって行われた可能性を示すものといえる。

まとめ

早岐地区では町の広い範囲が被災した大火が江戸時代中頃の延享3（1746）年、宝暦8（1758）年と明治39（1906）年の計3回発生したことが記録されており、今回の調査でもその際のものと考えられる火災整地層や整地土坑、焼土面などが確認された。また本調査では醸造関連と考えられる遺構が確認されており周辺の土地利用状況についての情報を得ることができた。

今回の調査原因である早岐川河川改修工事の事業対象地は近世早岐の中心部と考えられる早岐瀬戸遺跡のほぼ中央を縦断するもので、令和元年度の3調査でも佐世保市教育委員会による既調査でも近世の遺構や多量の遺物が確認されており、事業対象地全城で本調査の必要がある。201914調査についても設定した7箇所の調査坑すべてで遺物の出土が確認されており、多くの調査坑で遺構も確認されていることから調査対象範囲について継続的に本調査を実施する予定である。

【調査担当：山梨（01・06・14）、松元（01・14）、岩佐（06）】（文責：山梨）

2. 定光寺前遺跡【遺跡調査番号：201903】

所在 地 壱岐市芦辺町湯岳本村触

調査 担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査 原因 内容確認調査（教育支援）

調査 面積 10 m²

調査 期間 令和元年7月22日～26日

調査 区分 範囲確認調査

報 告 書 令和2年度刊行予定

処 置 調査後埋め戻し

立 地

深江田原平野の北西部で幡鉢川上流の支流沿いに位置する弥生時代から中世にかけての遺物包含地である。遺跡は定光寺の敷地内にあり、寺には南北朝時代に制作された釈迦如来坐像や室町時代の刻銘がある銅製雲版があり、県指定有形文化財となっている。



定光寺前遺跡近景

調 査

調査は長崎県埋蔵文化財センターが主体となり、壱岐高校東アジア歴史・中国語コースの生徒が授業の一環として参加した。調査区は2m×5mを2箇所（1区・2区）を設定し、表土から人力により掘り下げを行った。1区では表土下に2層の遺物包含層が確認され、1層は近世、2層は中世の土師器、白磁、青磁等が多数出土した。また2区では地表下約90cmに中世の遺物包含層が確認され、須恵器、青磁などとともに粉青沙器など朝鮮半島の陶磁器なども出土した。

まとめ

今回の調査では、遺物包含層は確認されたものの遺構の検出まではいたらなかった。ただ、遺物の量からすると周辺に遺構が存在することは確実であり、古代から中世へ続く興触遺跡や観城跡と関連する遺跡と考えられる。

【調査担当：寺田・古澤・長岡】（文責：寺田）

3. 中島遺跡【遺跡調査番号：201902】

所在地 長崎県五島市浜町 325-1, 327, 446-1

調査原因 主要地方道路福江富江線改良工事

調査期間 令和元年 6月 27 日～令和元年 9月 20 日

報告書 令和 2 年度刊行予定

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査面積 671 m²

調査区分 本調査

処置 調査後工事

立地

五島列島最南端の福江島の南東側に位置し、富江湾奥部の後背湿地に立地する。1985（昭和 60）・1995（平成 7）年に県教育委員会による発掘調査が実施され、縄文時代後期のドングリ貯蔵穴が検出された。調査区は遺跡範囲の東際で、鬼岳山麓の溶岩台地縁辺と後背湿地の変換点にあたる斜面地となっている。

調査

基本層序は I 層（表土・旧耕作土等）、II 層（縄文時代、弥生時代、古代の遺物包含層）、III 層（暗褐色シルト土）、IV 層（褐色礫質シルト土）、V 層（風化岩層）にまとめることができる。II 層では各時代の遺物が混在するとともに転石とみられる溶岩由来の礫をまばらに含む。

III 層上面で炉跡 1 基が検出された。平面円形で直径約 30cm の焼土集中部を有し、そこから梢円状の範囲に焼土・炭化物がまばらに分布する。炭化物の放射性炭素年代測定では紀元前 8 世紀前半の暦年代が得られた。II 層で出土した土器では坂の下式土器を中心とする阿高式系土器が主体であり、縄文時代中期後葉から晩期の土器が出土し、ついで弥生時代中期土器片が散見される。ただ II 層の上・下部に古墳時代～古代の須恵器片が出土しており、壺甕片のほか完形のハソウ体部や坏蓋ツマミ部等も見られる。石器では堅果類加工工具と考えられる台石・磨石・敲石・凹石や磨製石斧等が多量に出土した。

まとめ

これら出土遺物から調査地の成因を考えると、ドングリ貯蔵穴のある低湿地部に接続する斜面部において、堅果類加工を主とした縄文時代後期の営為があったものと推定できる。その後、各時代の営為や小規模な地すべり等を経て二次的に堆積したものと考えられる。



遺跡位置図



調査区中央部（北から。右側の水田が貯蔵穴検出地点）

【調査担当：松元・岩佐】（文責：松元）

ながさきにしやくしょあと
4. 長崎西役所跡【遺跡調査番号：201905】

所在地 長崎市江戸町2番13号

調査担当 長崎県教育庁学芸文化課

調査原因 旧県庁跡地活用事業

調査面積 1,215 m²

調査期間 令和元年10月16日～令和2年1月15日

調査区分 範囲確認調査

報告書 令和3年度刊行予定

処置 未定

立地と環境

遺跡の位置する市街地中心部は山裾のわずかな平地と金比羅山から南西方向に伸びる岬状の台地、台地周辺の埋立地である低地部によって形成されている。岬状の台地は第四紀更新世の火山活動による輝石安山岩や同質の火山碎屑岩を基盤に、旧中島川と呼ばれるかつて河川が運搬したそれらの砂礫層で構成される堆積段丘で、標高は11m～15mを測る。その岬状の台地の周辺に広がる低地部は主として近世以降に築出された中島川、浦上川及び海浜部の埋立地であり、本調査地周辺の標高は旧県庁舎本館が立地していた台地上で9m程度、中島川沿いの低地部で2m程度を測る。



調査地位置図

長崎の町は、大村氏によって1571（元亀2）年に南蛮貿易の拠点として開港され、あわせて6町が街区として整備された。遺跡の所在地には、その時にポルトガルのイエズス会宣教師フィゲイレドによって小さな教会（サン・パウロ教会堂）が建てられている。教会は豊臣秀吉による禁教政策の影響で断絶があるものの、幾度かの建て直しや増改築工事を経て、1593（文禄2）年の再建の翌年にはイエズス会本部が教会敷地内に置かれた。1601（慶長6）年には「被昇天のサンタ・マリア教会」が落成し、教会は信者の増加とともに順調に発展を遂げるものの、1614（慶長19）年のキリスト教禁制によって教会、鐘楼、時計台が破壊され、その歴史を閉じる。

江戸時代になると、教会跡地には糸割符宿老会所が設けられるが、1633（寛永10）年に発生した火災で本博多町にあった長崎奉行所東西屋敷が消失、糸割符宿老会所も類焼した。

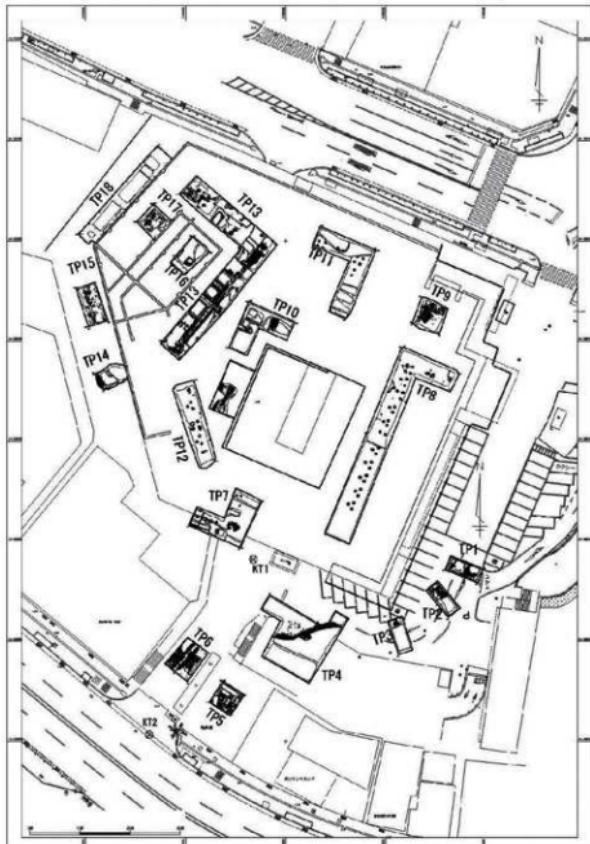
これを契機に両者で敷地を交換し、以後当地は長崎奉行所の敷地として利用される。1663（寛文3）年に発生した大火では、またも東西屋敷が焼失する。奉行所は再建されるものの、東西屋敷が同一箇所にあると全滅のおそれがあるため、1673（延宝元）年に立山に東屋敷を移転し（立山役所）、旧奉行所は西役所と称した。

西役所は1718（享保3）年に老朽化のため全面改修されたほか、1812（文化9）年に石火矢台場に改装されるなど小規模な増改築が行われながら幕末を迎える。幕末には1853（嘉永6）年にロシア使節団との会見が西役所で行われ、1855（安政2）年には所内に海軍伝習所と活字判擧立所が設置された。幕末の終末期には長崎奉行が長崎を脱出して支配権を放棄する。以後西役所は長崎会議所と改められ、明治を迎える。

明治時代になっても、西役所跡には長崎裁判所（後に長崎府）が置かれ、引き続き長崎の政治的中心地となっている。長崎府庁が立山に移転後、しばらくは広運館と呼ばれる学校になるが、1873（明治6）年には県庁と学校の土地建物の交換が行われ、1874（明治7）年に初代県庁が開庁される。しかしながら新築した庁舎は翌月の暴風雨で倒壊し、1876（明治9）年には第2代県庁が開庁する。

2代目県庁舎は老朽化に伴い解体され、第3代県庁舎は1911（明治44）年に完成した。開庁にあたっては、前年に完成した県会議事院とあわせて落成式が挙行され、3日間一般に観覧された。3代目県庁は以後30年余り機能するが、1945（昭和20）年の原爆投下に伴う火災によって全焼してしまう。

戦後、主な県庁機能は立山町に建設した仮庁舎にしばらく移されることになるが、最終的には1953（昭和28）年に第4代の県庁舎完成後に再移転が行われ、2018（平成30）年の第5代県庁舎へ移転するまで使用された。



調査終了時平面図

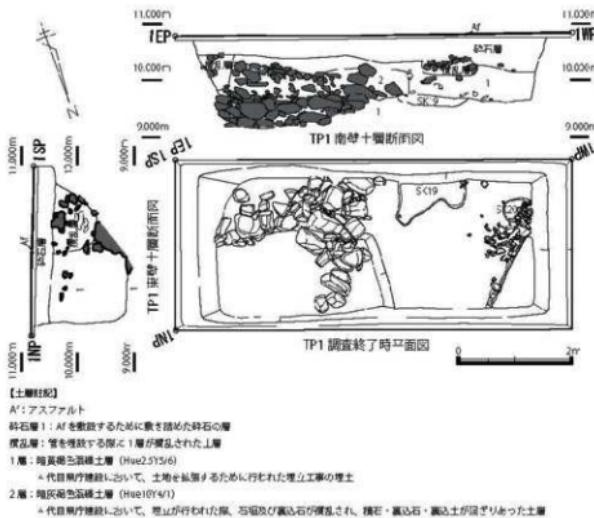
調査

調査は、対象地内に試掘坑を18箇所設定し、それぞれTP1からTP18の名称を付与した。

TP1

今後、活用される可能性がある石垣の埋蔵状態を確認するため、文化年間作成の絵図、2代目庁舎配置図、3代目庁舎配置図を参考に6m×2mの試掘坑を設定した。

この調査区から検出した石垣は南から北方向に延び試掘坑の途中で東側に折れている。石材が後述するTP2で検出した石垣で使用している石材と異なるため、後世積み替えが行われている可能性がある。また、石垣の内側にあたる部分に土坑(SK19、SK20)



を確認し、土坑内からは近代の陶磁器や瓦片が出土した。



土坑（SK19、SK20）調査終了状況（西から）



TP1 石垣検出状況（東から）

TP2

今後、活用される可能性がある石垣の埋蔵状態を確認するため、文化年間作成の絵図資料、2代目倅配置図、3代目倅配置図、平成22年度の範囲確認調査結果を参考に6m×2mの試掘坑を設定した。

この調査区からは、石垣と石壘状遺構を検出している。石壘状遺構は平成22年度の調査時に報告されているものであり、その延伸部分を今回検出している。石垣についても、平成22年度の調査時に報告されているものの墨線上に位置したところで3段目の頭まで検出している。石垣はさらに下に続くが、安全上の問題から今回の調査ではこれ以上の掘削は行わないこととした。

TP3

今後、活用される可能性がある石垣の埋蔵状態を確認するため、文化年間作成の絵図資料、2代目



TP2 石壙状遺構（上段）および石垣（下段）
検出状況（南から）

庁舎配置図、3代目庁舎配置図を参考に2m × 6mの試掘坑を設定した。

4代目県庁建設後の配管敷設により大きくかく乱されており、遺構は検出できていない。大型の石材が帶状に確認できる箇所があり、絵図面等を検討した結果、下には石垣が残っている可能性がある。

TP4

今後、活用される可能性がある石垣の埋蔵状態を確認するため、文化年間作成の絵図資料、2代目庁舎配置図、3代目庁舎配置図を基に11m × 11mに4m × 2mの延伸部2箇所を付け足した形の試掘坑を設定した。

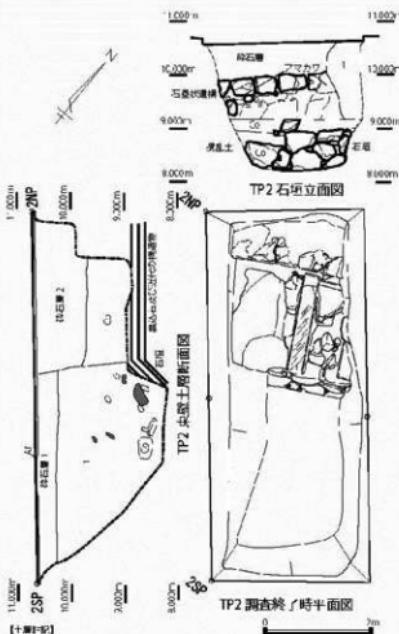
遺構として石垣を確認している。西側は切石を積み上げた石垣で、東側は自然石を積み上げた石垣になる。自然石を積み上げた石垣については、江戸時代前期までさかのぼる可能性があるとの専門家の所見を得ている。

TP5

江戸町の町屋が建っていた部分における遺跡

の有無について確認するため、4m × 4mの試掘坑を設定した。江戸町の町建では天正13年～文禄元年（1585～1592）とされている。

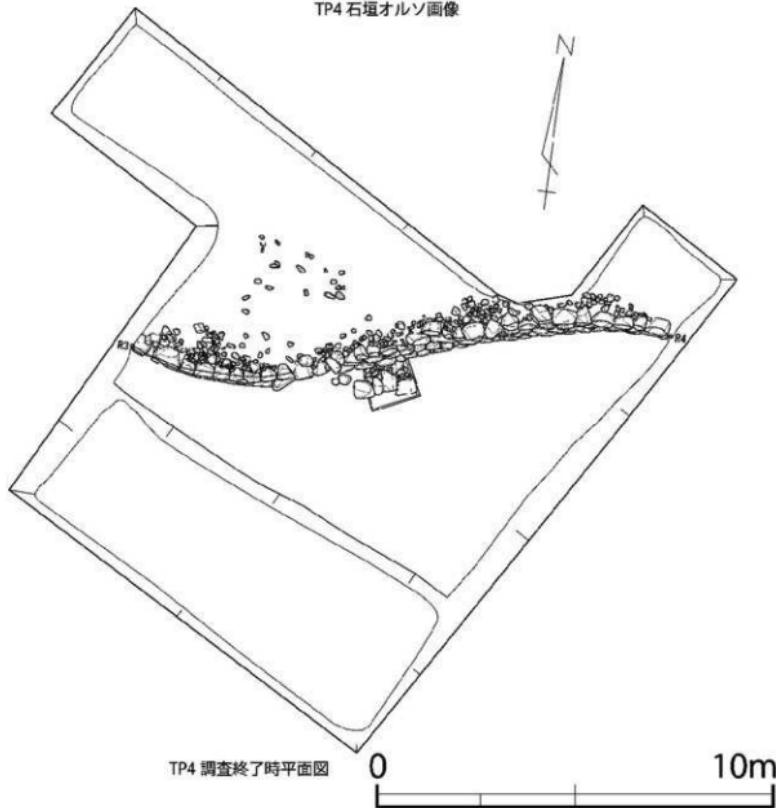
調査の結果、近代の生活面（1面、2面）の下、G. L-120cmの地点で近世生活面（第3面）及び第3面を掘り込んだ土坑（SK21、SK22、SK23、SK24）を確認した。また、第3面の下に第4面及び第4面



TP3 状況（南から）



TP4 石垣オルソ画像

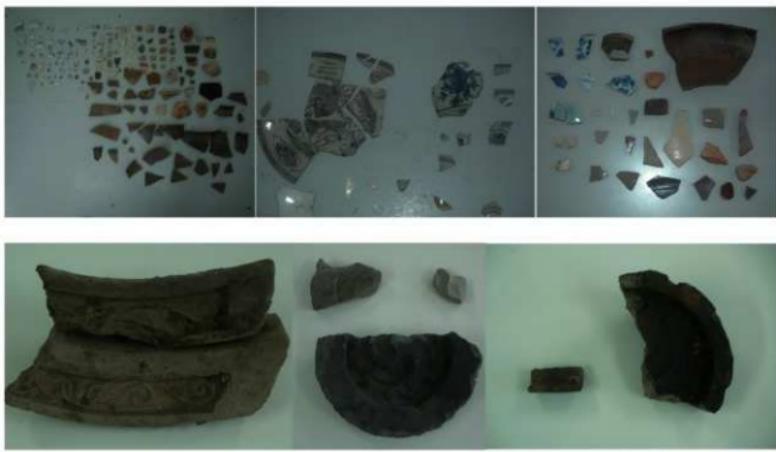


を掘り込んだ土坑（SK26、SK27）を確認した。

第3面で検出したSK21の出土遺物は景德鎮窯青花、漳州窯青花、東南アジア製陶器、国産陶器、国産磁器、瓦などである。陶磁器は、中国製青花と陶器類が主体を占めており、国産磁器は極めて少数で、年代は1630年代を下限とする。また、出土瓦のコビキは鉄線切り（コビキB）である。長崎におけるコビキBの出現は先行研究から1600年以降とされている。以上のことから、SK21の年代については1610年から1630年代と考えられる。

TP6

石垣の有無を確認するために $6m \times 4m$ を設定した。調査の結果、調査区中央部で南北方向に東側を面とする石垣を検出した。3代目県庁時代（明治44年から昭和27年）の江戸町側に通じるスロープ部分と考えられる。また、石垣の下に石とレンガをアマカワで固めた側溝、調査区東側でL字に曲がる石列を検出した。石垣の年代については、江戸時代後期までさかのぼる可能性があるとの専門家の所見を得ている。



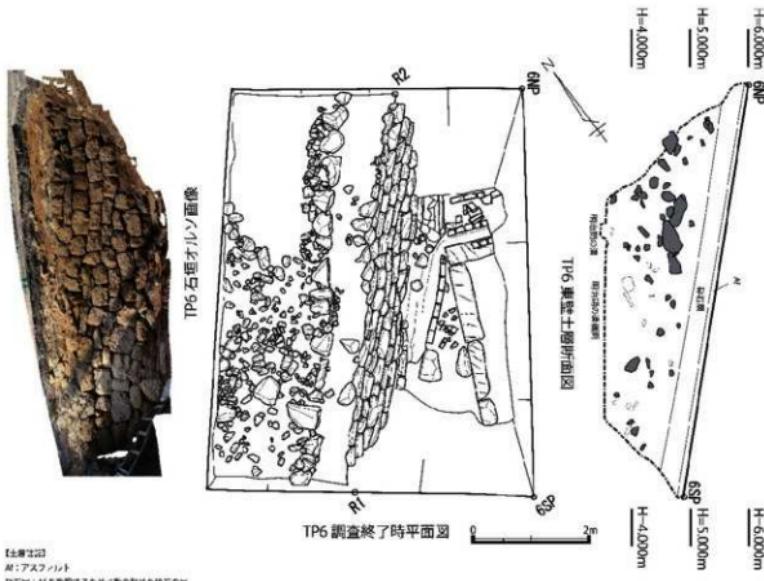
SK21 出土陶磁器・瓦

このほか、石垣の内側に石列が1条確認され、より古い石垣が内側に残存している可能性がある。

TP7

先史から教会堂が破壊される時代における遺構の確認を主たる目的として南北9m×東西7m×幅4mのL字形の試掘坑を設定した。

4代目県庁舎建設後の配管敷設により大きくくらく乱されており、遺構は確認できていない。また、地山が浅いところでは地表面から40cmで確認できた。明治期以降の削平が著しいものと考えられる。



TP6 遺構検出状況（北から）



石垣内側にある石列検出状況（南から）

TP8

先史から教会堂が破却される時代における遺構の確認を主たる目的として南北 38m × 東西 14m × 幅 4m の L 字形の試掘坑を設定した。

これまで地山直上で解体工事時に除却しなかった 4 代目県庁舎の基礎杭と割栗石を確認した。割栗石は比較的厚みのある石が用いられている。その中に加工した石が散見されるが、3 代目県庁舎の部材が再利用された可能性があるため、可能性のある石材については回収した。

また、石敷が検出された。地山を掘り込んで敷設する場所を作り、そこに扁平な石を敷き詰めている。3 代目県庁舎が建っていた位置と一致すること、直上に割栗石とコンクリートがあったことから、基礎の最底部に施工された地固めや排水用の施設と考えられる。

検出された遺構面で確認された地山面が水平になっていることから、3 代目県庁舎建設時及び 4 代目県庁舎建設時に地山を削平して地業が行われたものと考えられる。



TP7 状況（北から）



TP8 地山面検出状況（南から）

TP9

糸割符宿老会所 - 長崎奉行所 - 長崎西役所の時代における遺構の確認を主たる目的として 5m × 5m の試掘坑を設定した。

これまでに地山直上で解体工事時に除却しなかつた 4 代目県庁舎の基礎杭と割栗石を確認した。割栗石の状況は TP8 と同じである。

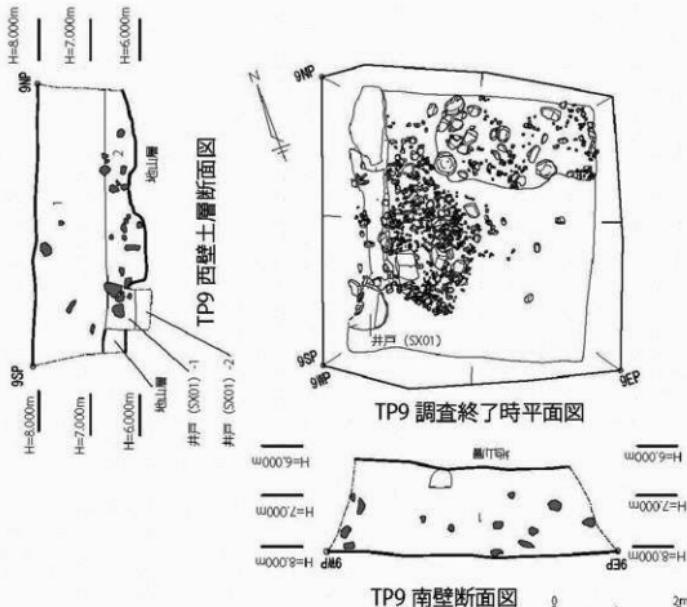
また、地山を掘り込む方形区画が 1 箇所検出された。比較的大きな玉砂利のほかにレンガやコンクリート片が入っているため、現代の施工によるものと考えられる。

このほか、試掘坑の南西隅で不明遺構（SX01）1 基を確認した。直径が 80cm を呈しており、遺構壁面が垂直に落ちていることから、井戸である可能性が高い。出土遺物は、1630～40 年代を下限とする陶器等製品である。また、縄文時代後期の土器が 1 点出土した。覆土はさらに続くが、人力で掘削できる限界深度に達したため、掘削を停止した。

検出された遺構面で確認された地山面が水平になっていることから、3 代目県庁舎建設時及び 4 代目県庁舎建設時に地山を削平して地業が行われたものと考えられる。



TP8 石敷検出状況（西から）



【土層註記】

1層：暗黄色褐色混疊土層 (Hue2.5Y5/6)

歴代県庁舎建替において横乱を受けている。層中にレンガ片、コンクリート片、磚を確認した。

2層：暗褐色混疊土層 (Hue7.5YR3/3)

30cm 程の砾と玉石を大量に含む。3代目県庁舎の基礎の一部と思われる玉砂利を敷き詰めた部分を確認した。

井戸 (SX01)

井戸 (SX01) -1：黒褐色粘質土層 (Hue2.5Y3/1)

井戸と思われる遺構の埋土。5～30cm 程の砾を含む。近代の陶磁器が出土した。

井戸 (SX01) -2：黒褐色粘質土層 (Hue2.5Y3/1)

井戸と思われる遺構の埋土であり、SX01-1 の下位に堆積している。層中から近世の磁器・黒色土器・縄文土器が出土した。



TP9 地山面検出状況（北から）



SX01 掘削状況（南から）



SX01 土層断面状況 (東から)



SX01 出土遺物

TP10

糸割符宿老会所 - 長崎奉行所 - 長崎西役所の時代における遺構の確認を主たる目的として南北 20m ×東西 10m ×幅 4m の L 字形の試掘坑を設定した。

これまでに地山直上で解体工事時に除却しなかった 4 代目県庁舎の基礎杭と割栗石を確認した。

割栗石の状況は TP8 と同じである。

そのほか、TP8 と同じ石敷を確認した。地山を掘り込んで敷設する場所を作り、そこに扁平な石を敷き詰めている。3 代目県庁舎が建っていた位置と一致すること、直上に割栗石とコンクリートがあったことから、基礎の最底部に施工された地固めや排水用の施設と考えられる。

確認された地山が 3 代目県庁舎基礎及び 4 代目県庁舎基礎の高さに合わせて水平になっているこ



TP10 石敷検出状況 (西から)

とから、3 代目県庁舎建設時及び 4 代目県庁舎建設時に地山を削平して地業が行われたものと考えられる。

TP11

糸割符宿老会所 - 長崎奉行所 - 長崎西役所の時代における遺構の確認を主たる目的として南北 14m ×東西 12m ×幅 4m の L 字形の試掘坑を設定した。

これまでに地山直上で解体工事時に除却しなかった 4 代目県庁舎の基礎杭と割栗石を確認した。割栗石の状況は TP8 と同じである。

また、TP8 や TP10 と同じ石敷が検出された。地山を掘り込んで敷設する場所を作り、そこに扁平な石を敷き詰めている。3 代目県庁舎が建っていた位置と一致すること、直上に割栗石とコンクリートがあったことから、基礎の最底部に施工された地固めや排水用の施設と考えられる。

このほか、3 代目県庁舎基礎の南側に基礎に平行する溝状の落ち込みを 1 条確認した。埋土は青灰色粘土（泥質土）を呈している。埋土からレンガ片や人工コバルトの磁器片が出土することから、3 代目県庁舎建設時に基礎と一緒に作られたものである可能性が高い。

確認された地山が 3 代目県庁舎基礎及び 4 代目県庁舎基礎の高さに合わせて水平になっていること

から、3代目県庁舎建設時及び4代目県庁舎建設時に地山を削平して地業が行われたものと考えられる。



TP11 石敷模出状況（東から）



TP11 溝状落ち込み完掘状況（西から）

TP12

先史から教会堂が破却される時代における遺構の確認を主たる目的として $15m \times 3m$ の試掘坑を設定した。

これまでに地山直上で解体工事時に除却しなかった4代目県庁舎の基礎杭と割栗石を確認した。割栗石の状況は TP8 などで確認したものと同じである。

確認された地山が3代目県庁舎基礎および4代目県庁舎基礎の高さに合わせて水平になっていることから、3代目県庁舎および4代目県庁舎建設時に地山を削平して地業が行われたものと考えられる。



TP12 基礎杭検出状況（南から）

TP13

先史から教会堂が破却される時代における遺構の確認及び歴代県庁舎の遺構確認を主たる目的として南北 $30m \times$ 東西 $21m \times$ 幅 $5m$ の L 字形の試掘坑を設定した。これまでにレンガ造構造物を確認している。3代目県庁舎が建っていた位置と一致することから3代目県庁舎の基礎と考えられる。

このほかに、西端の一部で地山が急に落ち込み、G.L-210cm の深さから瓦と漆喰片が混じった土層を確認した。この場所は、文化年間の絵図で一段下がったところに長屋（石垣上長屋）があり、文化9（1812）年に石火矢台場に改装されたとされる区画にある。また、敷地北側の万才町と桜島町との町境に位置する石垣の延長線上に位置していることから、当時の地形が残存している可能性がある。

また、瓦と漆喰片が混じった土層を掘り込むビット4基（SP07、08、09、10）と土坑1基（SK02）を確認した。ビットのうち2基は半裁を行い、土坑（SK02）については調査区壁に沿う形でトレンチを設定した。

土坑（SK02）から出土した遺物は、瓦片と陶磁器である。瓦片は瓦当面のある資料がないこと、桟

瓦の出土がないことが特徴である。陶磁器は肥前産見込荒磯雲龍文鉢片や景德鎮窯産の碗片が確認できる。このうち、最も製作年代の新しい陶磁器の年代は見込荒磯雲龍文鉢片の1660年代である。

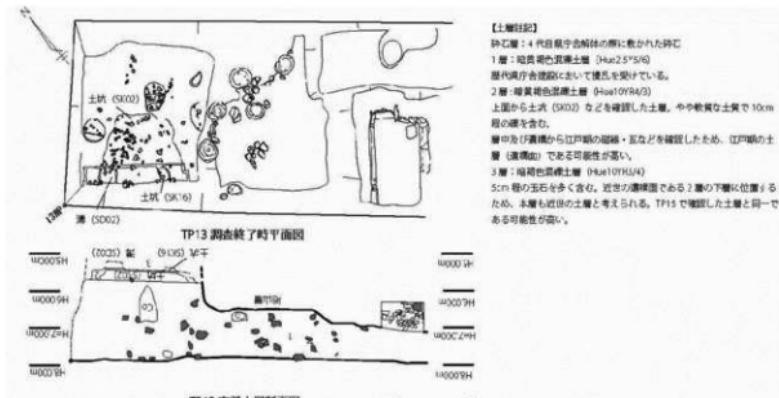
SK02 覆土（約30cm堆積）を掘削した下から遺構（SD01、SD02、SD03、SK16）を検出した。これによりTP13では少なくとも2面の遺構面が存在することを確認した。検出した遺構のうちSD02とSK16について遺構掘削を行った。

SK02とSD02・SK16の出土遺物を比較すると、SK02が1660年代を下限とする遺物が確認されるのに対し、下層に存在するSD02・SK16出土遺物がSK02より古い年代（1630～40年代を下限）の遺物でまとまる傾向が看取できる。

瓦と漆喰片の混じった土層を確認した範囲以外の部分については、レンガ造構造物や4代目県庁舎に関する基礎の直下に地山が確認できるため、3代目県庁舎及び4代目県庁舎建設時に地山を削平して地業が行われたものと考えられる。



TP13 レンガ造構造物検出状況（南から）





SK02 検出状況（南から）



SD01・SD02 検出状況（北から）



SK02 出土遺物



SD02 出土遺物

TP14

今後の活用が想定されている石垣の埋蔵状態を確認するため、文化年間作成の絵図資料、2代目庁舎配置図、3代目庁舎配置図に基づき $5m \times 2m$ の試掘坑を設定した。

これまでに石垣か石列の一部と思われる石列を確認した。壊れているが石が並んでいる状況が確認できる。

また、レンガ造構造物を確認した。

記録作成後、除却する際にコンクリート基礎が厚く敷設されていることを確認した。4代目県庁舎の基礎の下に潜り込むようにレンガ造構造物が続くことから、3代目県庁舎に伴う建物基礎と思われる。コンクリート構造物を除却した下は地山が整形されていたため、少なくともレンガ造構造物が建っていた範囲は建設時に地山を削平して地業が行われたものと考えられる。



TP14 レンガ造構造物検出状況（東から）

TP15

歴代県庁舎の遺構確認を主たる目的として $8m \times 4m$ の試掘坑を設定した。

これまでにレンガ造構造物を確認した。4代目県庁舎の基礎の下に潜り込むようにレンガ造構造物が続くことから、3代目県庁舎の時代の建物跡である。

また、このレンガ造構造物を除却した直下から瓦と漆喰片が混在した土層を確認した。この場所は、文化年間の絵図で一段下がったところに長屋（石垣上長屋）があり、文化9（1812）年に石火矢台場に改装されたとされる区画に一部が該当するところにある。

また、瓦と漆喰片が混在した土層を掘り込むビット4基、柵列1条（SA01）、土坑5基を確認した。

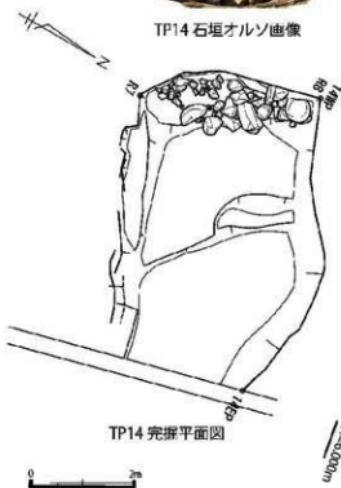
柵列（SA01）出土遺物は瓦片や陶磁器である。桟瓦の出土ではなく、陶磁器は細片で年代比定が難しいが、18世紀以降のいわゆる「くらわんか手」に該当するものは出土していない。

また、調査区の南西部に土層確認ならびに下層の遺構確認を目的とした長さ4m×幅1mのサブトレーンチを設定した。遺構面（G.L-90cm）から120cm掘り下げた地点で遺構と思われる土色の違う箇所を検出した。また、同じ地点でトレーンチの南西隅に地山を確認した。土層の堆積状況について、サブトレーンチ内の土層は東から西へ傾斜する様相が確認できる。

また、サブトレーンチ内から出土した遺物は、直上が近代のレンガ造構造物であるため多少の近代以前の遺物の混入が見られるが、瓦や陶磁器などの遺物を包含しており、製作年代が1610～30年代と思われるものが多い。



TP14 石垣オルソ画像



TP14 完振平面図

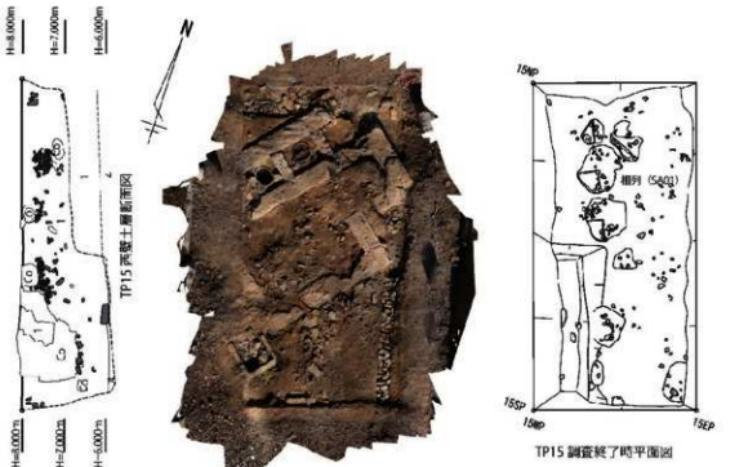


【土層記述】

1層：暗黄褐色泥疊土層（Hac2.5VS/6）
明治期～昭和初期の構造物及び4代目県守合建築の際の摩十により掩埋された土層。レンガ造の枠形構造物、コンクリート片、基礎の一部と思われる土台などを確認した。



TP15 レンガ造構造物検出状況（北から）



TP15 近代遺構曲オルソ図像

【土層目録】

1層：暗褐色褐色泥質土層 (Hue3.5VS6)

近世の構造物により削り、どれか十箇。レンガ造の折形構造物、コンクリート片、基礎の一帯と述べられる玉石を確認した。

2層：暗褐色褐色泥質土層 (Hue10YR4/3)

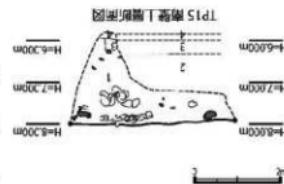
上面から土塊 (SK05, SK07) をも確認した。やや軟質な土層で、10cm 程の根を含む。江戸期の角柱・瓦片を確認した。江戸期の土層（遺構層）である可能性が高い。

3層：暗褐色泥質土層 (Hue10YR3/4)

5cm 程の三石を多く含む。近世の構造物の可能性が高い。2 層の下部に位置するため、本層も近世の底土と考えられる。TP13 で確認した土層と同一である可能性が高い。

4層：暗褐色土層 (Hue10YR4/3)

やや軟質な土層。今回の測定では層中から遺物は確認できなかった。近世の底土と考えられる 3 層の下位に堆積するため、近世の底土・軟弱土である可能性がある。



TP15 遺構検出状況（北から）



TP15 サブトレンチ土層状況（東から）



TP15 サブトレーンチ出土遺物



TP15 サブトレーンチ南壁土層断面状況(北から)

TP16

糸割符宿老会所・長崎奉行所・長崎西役所の時代における遺構の確認を主たる目的として 5m × 3m の試掘坑を設定した。

これまでにレンガ造構造物を確認した。4代目県庁舎の基礎の下に潜り込むようにレンガ造構造物が続くことから、3代目県庁舎の時代の建物跡と考えられる。

レンガ造構造物の施工範囲外と思われる箇所では、G.L-20cm で地山が確認でき、レンガ造構造物を除却した直下は地山であったため、レンガ造構造物の施工時に地山を削り込んで地業したものと考えられる。



TP16 レンガ造構造物検出状況（北から）

TP17

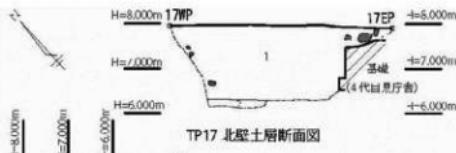
糸割符宿老会所・長崎奉行所・長崎西役所の時代における遺構の確認を主たる目的として 5m × 3m の試掘坑を設定した。

これまでに 3代目及び4代目県庁舎に伴うかく乱を除去した G.L-170cm の位置から瓦と漆喰片が混じった土層を確認した。この場所は、文化年間の絵図で一段下がったところに長屋（石垣上長屋）があり、文化 9（1812）年に石火矢台場に改装されたとされる区画内にある。

瓦と漆喰片が混じった土層を掘り込むピット 1 基と土坑 8 基を確認した。土坑の一部について調査



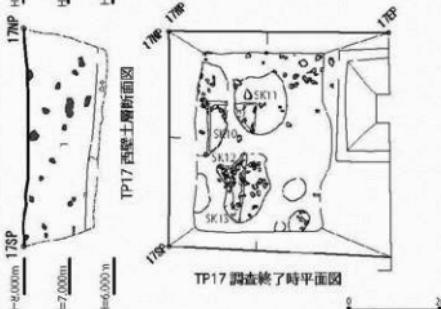
TP17 遺構検出状況（南から）



TP17 北壁土層断面図



TP17 SK12・SK13 挖削状況（西から）



TP17 西壁土層断面図

TP17 調査終了時平面図

【L層】に記
1層：鉛色褐色泥質土層 (Hue2.5YR5/6)
4代目県庁舎建築物の廃土層。5~40cm程の漆、コンクリート片、瓦片等を確認した。

2層：鉛色褐色泥質土層 (Hue7.0YR4/3)
土坑 (SK10・SK11他) を確認した層。やや軟質な土層で10cm程の漆を含む。層中及び

遺構から江戸期の磁器や瓦片を確認した。江戸期の土層（遺構由）である可能性が高い。

なお、TP13、TP15で確認した土層と同一である可能性が高い。

を実施した。

土坑からの出土遺物は瓦片や陶磁

器である。棟瓦の出土は無く、陶磁器は細片で年代比定が難しいが、18世紀以降のいわゆる「くらわんか手」に該当するものは出土していない。

TP18

糸割符宿老会所 - 長崎奉行所 -
長崎西役所の時代における遺構の
確認を主たる目的として 20m × 3m
の試掘坑を設定した。

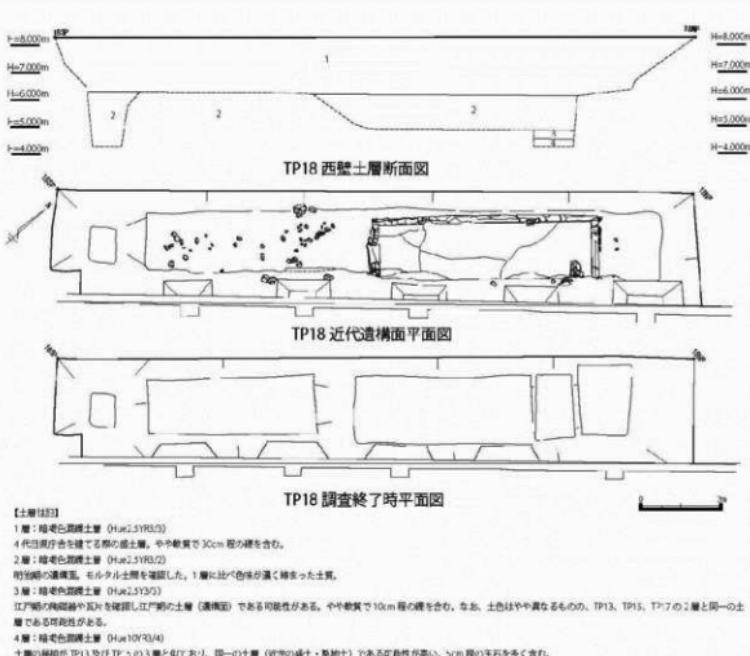
これまでに G.L-210cm の位置で
レンガ造構造物を確認した。4代
目県庁舎の基礎の下に潜り込むよ
うにレンガ造構造物が続くことか
ら、3代目県庁舎の時代の建物跡
である。

また、同じく G.L-210cm の位置で瓦と漆喰片が混じった土層を確認した。この土層はレンガ造構造
物を除却した下の位置でも確認できる。

北端及び南端は G.L-400cm まで掘削したが地山を確認できなかった。安全上、これ以上の掘削は危
険と判断し、この深さで調査を停止した。



TP18 レンガ造構造物検出状況（北から）



まとめ

調査成果として、以下のことが列挙できる。

地山を確認した調査範囲の東側（TP7～12、TP13と14の東側、TP16）については、TP9で確認した井戸跡を除いて近世以前の遺構は近代以降の削平行により消失している。

瓦と漆喰片が混入した土層ならびにその土層を掘り込んだ遺構を確認した調査範囲の西側の一部（TP13の西側、TP15、TP17、TP18）については、近世の盛土・整地土および近世の遺構が少なくとも2面残存していることを確認した。その範囲は、文化年間の絵図で一段下がったところに長屋（石垣上長屋）があり、1812（文化9）年に石火矢台場に改装されたとされる区画内とほぼ一致する。また、敷地北側の万才町と樅島町との町境に位置する石垣の延長上に位置していることから、当時の地形が残存している可能性がある。

遺構の時代については、遺構出土遺物の年代観、瓦の中に棟瓦が含まれていないこと、この土層や遺構が1663（寛文3）年の「寛文の大火」層や「寛文の大火」の整理土坑の様相を呈していないことや、当該地における火災の記録などを考慮すれば、「寛文の大火」以前の17世紀中ごろ（およそ1660年代）と考えられる。

また、この17世紀中ごろの土層の下に盛土・整地土及び生活面の存在を確認したことから、調査

区の西側については、複数の生活面が残存している可能性がある。

TP9で確認した井戸跡については、井戸の天端がある本来の生活面は近代以降の開発行為により削平されてしまっているが、深く掘削する井戸という遺構の性格上、遺構下部が残存したものと考えられる。

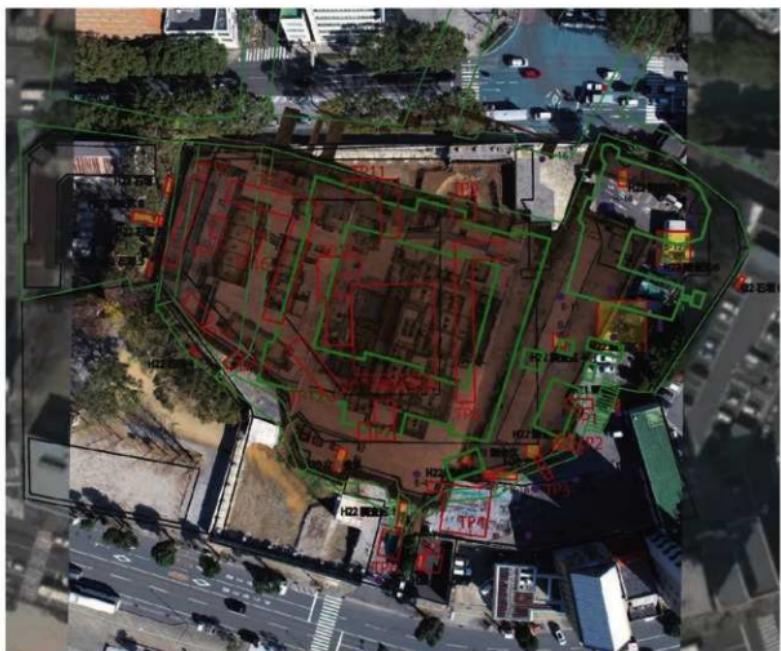
調査地の南西部及び南東部に埋蔵している石垣が確認でき、その里線については、確認された位置が絵図・地図・写真資料と一致することから、南西部及び南東部の一定範囲に石垣が残存している可能性が高い。

南側石垣より南側に位置する江戸町の町屋については、江戸時代前期の生活面を2面確認した。残存している石垣より外側から擁壁の内側の範囲には、江戸町の町屋が面的に残存している可能性がある。

【調査担当：濱村・前田】（文責：濱村）



西役所絵図と現況写真的合成図



3代目県庁舎と西役所絵図と現況写真的合成



今回の調査で遺跡の残存が確認された範囲

5. 畑中遺跡【遺跡調査番号：201907】

所 在 地 島原市亀の甲町乙 1694

調査原因 国道 251 号線交通安全施設等整備工事

調査期間 令和元年 11 月 7 日～11 月 29 日

報 告 書 令和 2 年度刊行予定

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査面積 150 m²

調査区分 本調査

処 置 調査後工事

立 地

島原半島東部に位置し、雲仙普賢岳の山麓扇状地末端にあたる。28 万 m²と広範囲に広がる当遺跡では、1991 年（平成 3 年度）に標高 30m 付近で工事建設に伴う発掘調査が行われており、縄文時代晩期の埋甕や中世の溝状遺構・掘立柱建物跡・精錬鍛冶遺構が検出され、また遺物では縄文時代早期・晩期・中世の包含層で多量の遺物が出土している。



遺跡位置図

調 査

今回の調査地区は遺跡の北端に位置し標高 12 ～ 14m ほどの有明海沿いに位置する。国道 251 号線沿線のバス停移転地として歩道拡幅工事に伴い南北に細長い 150 m²を対象に行つた。調査の結果、溝状遺構 1 条、集石遺構 3 基、ピット 9 基の遺構が確認された。

溝状遺構は調査区北半の 2 層下部から 3 層上面の掘り下げ中に検出された。東岸と底面を確認できたが、西岸は調査区外の西側に続く。深さは 1.6m 以上、幅は推定で 4m 以上ある。断面逆台形で壁面・底面は平滑に造られている。埋土の上層では硬化面が検出され、その縁辺には雑に並べたような石列状の礎及び土塊が認められた。年代的には 12 世紀後半～13 世紀前半には埋没していたものと考えられる。出土遺物としては、4 層から縄文時代早期の土器片、2 層から縄文時代晚期土器片や安山岩系の石器剝片、2 層～3 層から弥生時代中期土器片、2 層及び溝状遺構埋土を主体に大量の鉄滓を含む古代～中世の遺物が出土している。



溝状遺構完掘写真

まとめ

平成 3 年度の本遺跡の調査では、中世に属する遺構の中に、直行する溝に閉まれた建物跡と鍛冶場遺構が検出されており、今回の調査で検出された溝状遺構や出土品と類似点がみられ、細長い調査区で一部分の検出ではあったが、溝状遺構が中世の区画溝であった可能性が示唆される。

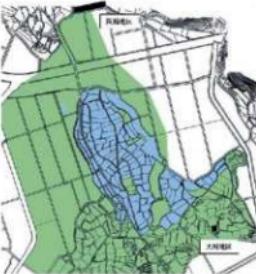
【調査担当：松元・片多】(文責：片多)

はものつけ 6. 原の辻遺跡【遺跡調査番号：201908・201909】

所在地	壱岐市芦辺町深江平触 25-3, 26-1	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	原の辻遺跡調査研究事業	調査面積	485 m ²
調査期間	令和元年 11月 5日～12月 27日	調査区分	範囲確認調査
報告書	令和2年度刊行予定	処置	調査後埋め戻し

立地

原の辻遺跡の北側、安国寺が位置する高台の隣接地である閑緑地区と、遺跡の南側丘陵端部に位置する大川地区で発掘調査を実施した。閑緑地区は北から延びる丘陵の裾部にあたり、昭和29年の東亞考古学会の調査で弥生時代中期の墓域が検出され、甕棺墓や石棺墓などの列状配置が確認されている。大川地区は標高約10mの低丘陵上で、平成6年度と平成10年度の調査で古代（8世紀末から10世紀中ごろ）の白磁や青磁などの貿易陶磁器が出土しており、近隣に官衙跡が推測されているところである。



遺跡位置図

調査

閑緑地区では、過去に検出された墓域の広がりを確認するために3箇所の調査区を設定した。調査区は西から1区～3区とし、さらにその調査区の中に2箇所のトレンチ（a区・b区）を設置し、重機による表土剥ぎと人力による掘り下げをおこなった。掘り下げを進めるに従って圃場整備による造成土が厚く堆積しており、1a・1b・3a区で約2m下に弥生時代の遺物包含層が確認されたものの、それ以上掘り広げることが困難となったため、記録を取り現状復旧を行った。包含層からは、弥生土器をはじめ磨製石剣や陶質土器などの摩滅した小片が出土している。



遺構検出状況（大川地区）

大川地区は、磁北を基点として5m四方のグリッドを設定し発掘調査を実施した。グリッドは北から南に1～5区、東から西にa～d区と番号を付し、間には土層観察用のベルトを残しながら人力での掘り下げを行った。1a区から3a区にかけては近世以降の土地の造成が確認された。また調査区南側の丘陵周辺部に古代から中世にかけての遺物包含層が確認され、土師器や須恵器、青磁等が出土している。また、近世以降の造成の埋土の中からは、旧石器時代の黒曜石剥片なども出土している。

まとめ

閑緑地区では墓域の広がりを求めたが調査区の制約などもあり確認できなかった。ただ磨製石剣が出土したことから近隣まで墓域の広がりがあることが想定できる。大川地区では古代の遺物包含層は部分的ではあるが確認されており、近隣に建物などの遺構の存在が予想できる。

【調査担当：古澤・長岡】(文責：寺田)

ながぬき じちゅう はらぐち
7. 長貫B遺跡（隣接地）、寺中A遺跡（隣接地）、原口B遺跡（隣接地）、
しもげんばいこうち はいのくば
下源在高野遺跡（隣接地）、灰ノ久保遺跡

【遺跡調査番号：201910～201913・201915】

所在地 長貫B遺跡（隣接地）：島原市津吹町415-3 地先

寺中A遺跡（隣接地）：島原市寺中町乙429-4 地先

原口B遺跡（隣接地）：島原市原口町丙397 地先

下源在高野遺跡（隣接地）：島原市有明町大三東2022-3 地先

灰ノ久保遺跡：有明町大三東甲1000 地先

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター 調査原因 島原道路（出平有明バイパス）建設

調査面積 長貫B遺跡（隣接地）：6 m² 寺中A遺跡（隣接地）：18 m²

原口B遺跡（隣接地）：38 m² 下源在高野遺跡（隣接地）：19 m²

灰ノ久保遺跡：12 m²

調査期間 令和2年1月14日～1月31日、令和2年2月17日～2月21日

調査区分 試掘・範囲確認調査 報告書 刊行予定なし

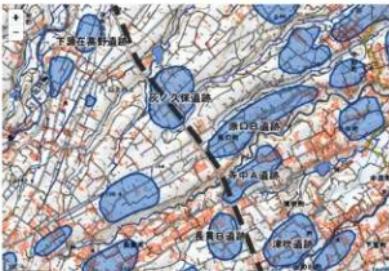
処置 本調査（寺中A遺跡（隣接地）、原口B遺跡（隣接地））

継続調査（下源在高野遺跡（隣接地）、灰ノ久保遺跡）

調査後工事（長貫B遺跡（隣接地））

立地

調査原因となる出平・有明バイパスは、諫早市と南島原市を結ぶ一般国道251号線「島原道路」の一部として、県央と島原半島間の時間短縮を図り、沿線地域の活性化に寄与することなどを目的に計画されているものである。平成30年度に予定路線における試掘・範囲確認調査を開始した。今回の各遺跡は島原半島東部、雲仙火山の火山麓扇状地下端にあたり標高は73～96m程度である。雲仙岳から放射状に伸びる舌状台地上にそれぞれ立地する。



遺跡位置図 (破線: バイパス予定路線)

調査

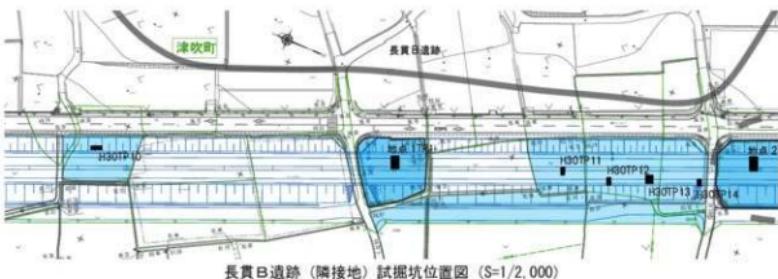
バイパス建設用地のほとんどが直前まで畠地として利用されており、畠面の隨所に試掘坑(TP)を設定し調査を行った。I層(耕作土等)、II層(黒ボク。縄文時代前期～中世の遺物包含層)、III層(褐色砂質土;鬼界アカホヤ火山灰由来か。ほぼ無遺物か)、IV層(黒ボク。後期旧石器時代～縄文時代早期相当か)、V層(黒褐色混バミス硬質土;通称カシノミ層)。礫石原火碎流由来か。後期旧石器時代相当か)、VI層(褐色硬質土;姶良丹沢火山灰由来か。後期旧石器時代相当)、VII層(黒ボク)、VIII層(黄橙色シルト土)以下にまとめている。



基本土層 (原口B遺跡 (隣接地))

基本土層 (灰ノ久保遺跡)

長貫B遺跡（隣接地）の昨年度の試掘調査では、II・III層が部分的にしか残存しておらず、埋蔵文化財は確認できなかった。今年度の試掘地点では現地表から深さ40cmほどが耕作土で、その下は105cm厚の盛土層となっていた。この層はIV・V層の削平面に盛土されている。IV・V層を部分的に掘削したが遺構・遺物は確認できなかった。よって長貫B遺跡は島原道路建設予定地までは拡がらな



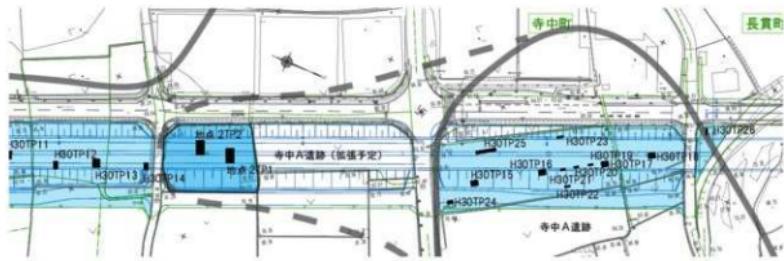
いことが確認され、当該工事に支障はないとの判断した。

寺中A遺跡は昨年度行った範囲確認調査で遺構・遺物が確認されており、今年度は隣接地における遺跡範囲の広がりを把握するため試掘坑を設定した。TP1・2共に現地表から深さ60～70cmほどが耕作土で（I a層）、その下の30cmほどが旧耕作土（I b層あるいはII a層）となっている。その下のII層は30～40cmほどの厚み

があり黒味の強いII b層とやや褐色がかるII c層に細分できる。TP2西側のII b層上面では硬化層が認められた。II b・c層を削り込むように南に下って堆積している。何らかの遺構である可能性がある。遺物ではI b・II層で土器細片が多く出土した。弥生土器・土師器の細片が主で、龍泉窯産青磁碗、瓦質擂鉢や備前産陶器壺の欠片、安山岩系の石器剥片や結晶片岩も見られる。また鐵鋤の欠片や鉄滓も出土している。II・III層境では縄文時代晚期の土器片が、IV層上面では縄文時代早期の押型文土器細片が少量出土した。昨年度の調査地点と同様、今回の試掘調査地点でも埋蔵文化財の存在が認



地点1 試掘坑TP1 土層断面状況 (南から)



寺中A遺跡（隣接地）試掘坑位置図 (S=1/2,000)



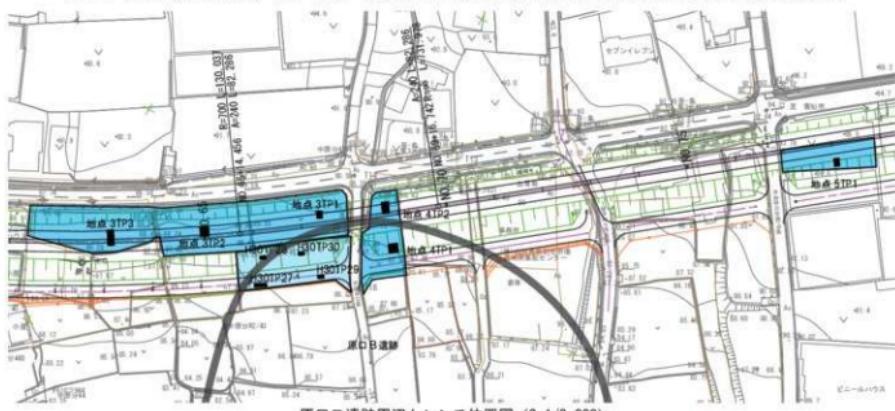
地点2試掘坑 TP1 土層断面状況（南から）



地点2試掘坑 TP2 土層断面状況（東から）

められた。遺物包含層の確認された箇所を含むように遺跡範囲を拡張し遺跡地図を更新する必要がある。また、当該範囲での工事に際しては協議が必要となる。

原口B遺跡（隣接地）の一部は昨年度に試掘調査を行ったが、VI層まで削平されており遺構・遺物は認められなかった。今年度の試掘地点でもV～VI層まで削平を受けており部分的にII・III層が残存している状況であった。ただ、地点4ではII・III層境から縄文時代晚期や弥生時代の土器小片が出土し、ピット3基が検出された。ピットはいずれも直径25cm前後の円形で埋土はII層由来である。完掘した



原口B遺跡周辺トレンチ位置図 (S=1/2,000)

SP1 は深さ 45cm を測り、3 基の分布状況からは掘立柱建物跡の隅部とも見て取れる。また、地点 3TP1 では VI 層で旧石器とみられる黒曜石製剝片 3 点が出土した。旧石器時代の包含層に伴う遺物の出土は



地点 3TP1 土層断面状況（南から）



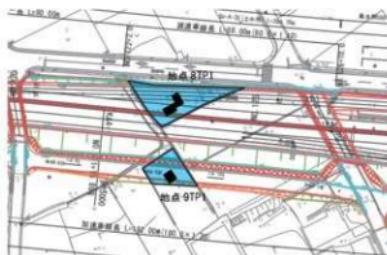
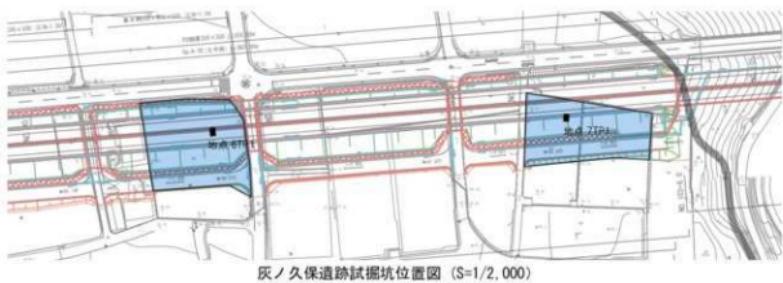
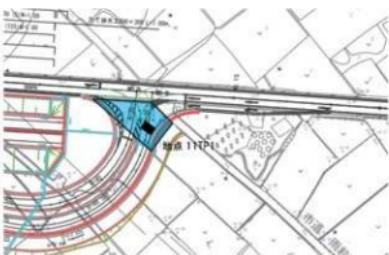
地点 3TP1 出土遺物



地点 4TP2 ピット検出状況（南から）



地点 8TP1 土層断面状況（南西から）

下源在高野遺跡（隣接地）試掘坑位置図 ($S=1/2,000$)灰ノ久保遺跡試掘坑位置図 ($S=1/2,000$)

島原市内では初出である。また剥片の出土層位では30cm長の円礫も出土している。今回調査範囲の一部は工事に際して協議が必要となる。

下源在高野遺跡（隣接地）は今年度に初めて試掘調査に着手する遺跡で、いずれの地点でもⅢ～Ⅳ層まで削平を受けており、部分的にⅢ層が残存している。地点9ではⅣ層の下が疊層となる。地点8・11でVI層まで、地点9でIV層下部まで調査したが、いずれの地点でも遺構・遺物は確認できなかった。

灰ノ久保遺跡は今年度に初めて着手する遺跡で、バイパスの区間中で最も標高が高い。地点6・7共にV～VI層で削平を受けており、その上に50cm厚ほどの耕作土が載る。地点6ではⅧ層上面まで、地点7ではVI層下部まで調査したが、遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

今回の試掘・範囲確認調査によって、該当区間での埋蔵文化財の状況をある程度は確認できたが、用地取得や作付け等の関係で立ち入りできなかった範囲については、令和2年度以降も引き続き調査する必要がある。

【調査担当：松元】（文責：松元）

8. 丸尾遺跡

所在地 南松浦郡新上五島町丸尾郷

調査担当 新上五島町教育委員会（県指導）

調査原因 斜面災害復旧工事

調査面積 12 m²

調査期間 令和2年2月17日～19日

調査区分 範囲確認調査

報告書 刊行予定なし

処置 調査後工事

立地

旧新魚目町に所在する番岳の南東側に位置する標高約30mの丘陵上にある遺物包含地で、昭和48年ごろに旧石器時代から縄文時代の石器などが表採されたといわれている。元来は畑地であったが、近年宅地化が進みつつある。

調査

令和元年7月に発生した集中豪雨により発生した土砂崩れにより魚目中学校の校舎の一部が埋没したことから、急速崖面の災害復旧工事を行うこととなった。工事の範囲は小規模であるが、遺跡の南端にあたることから3箇所の調査区を設定し範囲確認調査を実施した。良好な赤褐色粘土層が確認されたが、遺物や遺構は確認されなかった。

まとめ

調査の結果、遺構や遺物は確認されなかったため、慎重に工事を進める対応となった。

【調査担当：寺田】（文責：寺田）



灰ノ久保遺跡近景（南西から）

9. 正興寺跡（隣接地）

所在地	北松浦郡佐々町皆瀬免	調査担当	佐々町教育委員会（県指導）
調査原因	保育所建設	調査面積	16 m ²
調査期間	令和元年 11月 11日～15日	調査区分	試掘調査
報告書	なし	処置	工事立会
立地			

正興寺跡は佐々川上流域の標高約 27m の河岸段丘上にある中世の寺院跡である。遺跡の周囲には広範囲の段丘が続いており、遺跡が立地する可能性が高い場所である。

調査

正興寺跡に隣接する畠地に民間の保育所建設が計画されたため、工事に先立ち 4箇所の調査区を設定し試掘調査を実施した。調査の結果、3箇所の調査区から柱穴や縄文土器や黒曜石剝片などの遺物が確認されたため、この地域に遺跡があったことは間違いないと、周知の埋蔵文化財包蔵地（春ノ前遺跡）として遺跡地図に登録した。

まとめ

今回の工事予定地は表土直下から遺物が出土しており、土器の摩滅も顕著であることから、遺跡が良好に残っている状況とは言えず、工事に際し町教育委員会が立ち会い遺跡の有無を確認することとした。

10. 末永遺跡（隣接地）

所在地	北松浦郡佐々町口石免	調査担当	佐々町教育委員会（県指導）
調査原因	宅地造成	調査面積	16 m ²
調査期間	令和元年 11月 13日～25日	調査区分	試掘調査
報告書	なし	処置	工事計画策定後要協議
立地			

末永遺跡は佐々町南東部の丘陵部に位置する縄文時代の遺物包含地である。平成 17～18 年度に西九州自動車道建設に伴って範囲確認調査が行われたが遺構等は確認されなかった。現在は畠地となっていて、高規格道路が開通したことにより宅地が広がりつつある地域である。

調査

宅地造成の計画が作られその設計を行うにあたり 4 箇所の調査区を設定し試掘調査を実施した。標高約 8m の北側調査区 2 箇所（1 区・2 区）では耕作土直下に地山（岩盤）があり、遺構・遺物などは確認されなかった。ただ、南側の調査区 2 箇所（3 区・4 区）については、表土下約 60cm の深さで黒曜石剝片を含む遺物包含層が確認された。

まとめ

遺物包含層が確認された範囲については、新たに周知の埋蔵文化財包蔵地（宮ノ前遺跡）として遺跡地図に登録し、今後宅地造成の計画が定まった時点であらためて協議することとした。

【調査担当：寺田】（文責：寺田）

11. 太田遺跡（隣接地）

所在地 西海市西海町面高

調査担当 西海市教育委員会（県支援）

調査原因 面高地区基盤整備事業

調査面積 88 m²

調査期間 令和元年7月29日～8月20日

調査区分 試掘調査

報告書 なし

処置 調査後工事

立地

西海市面高地区は、西海市北部の佐世保湾に突き出す高台上に位置し、夏はスイカ、冬は切り干し大根の原料となるダイコンの生産地である。この面高地区で約73haの農地基盤整備事業が計画された。

調査

分布調査を行った結果、2地点(A・B)で黒曜石などの遺物の散布が見られたため試掘調査を実施した。A地点は整備事業地区的北域にあたり、標高約60mの丘陵頂部に位置する。2m×2mの11箇所の調査区を設定し人力による掘り下げをおこなったが、耕作土直下に地山が確認され遺物包含層は確認されなかった。B地点は整備事業地区的南側で、標高約75mの丘陵頂部にあたり、眼下に面高港や角力灘が一望できる。2m×2mの11箇所の調査区を設定し掘り下げをおこなったところ、遺物包含層は確認されず、岩盤まで掘りこまれた重機のバケット痕が確認された。

まとめ

いずれの調査区からも遺物包含層や遺構等は確認されなかった。後世の開墾により大掛かりな削平が行われ、遺物包含層が消滅したと考えられる。

12. 平倉遺跡

所在地 西海市大瀬戸町多以良郷

調査担当 西海市教育委員会（県支援）

調査原因 消防格納庫建設

調査面積 8 m²

調査期間 令和元年8月22日

調査区分 範囲確認調査

報告書 なし

処置 調査後工事

立地

平倉遺跡は、西彼半島北西部の角力灘に面して突出する標高約40mの丘陵頂部に位置する。昭和57年に行われた分布調査により確認された遺跡で、現在は畠と墓地であるが、多数の遺物が表採される。

調査

対象範囲（約250 m²）に2箇所の調査区を設定し、範囲確認調査を実施した。表土からは黒曜石の剥片や近世陶器がわずかに出土したが、表土直下は地山で、遺物包含層は確認されなかった。

まとめ

工事については特に支障はなく、慎重工事対応とした。

【調査担当：寺田】(文責：寺田)

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんmaiぞうぶんかざいちょうさねんぼうにじゅうはち					
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報28					
副書名	令和元年度調査分					
巻次	28					
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書					
シリーズ番号	第36集					
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター					
所在地	〒811-5322 長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触515-1 TEL0920(45)4080					
発行年月日	2020年8月28日					
所収遺跡名	所在地	遺跡コード	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
		市町 遺跡番号				
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	42202	493	20190527～20190531	21.0	河川
中島遺跡	五島市	42211	033	20190627～20190920	671.0	道路
定光寺前遺跡	壱岐市	42210	379	20190722～20190726	10.0	保存目的の範囲 内容確認調査
長崎西役所跡	長崎市	42201	137	20191016～20200131	1,016.0	その他開発（県 庁舎跡地活用）
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	42202	493	20191023～2020312	722.0	河川
畠中遺跡	島原市	42203	017	20191107～20191129	150.0	道路
原の辻遺跡（閑縁地区）	壱岐市	42210	424	20191105～20191227	300.0	保存目的の範囲 内容確認調査
原の辻遺跡（大川地区）	壱岐市	42210	424	20191118～20191227	185.0	保存目的の範囲 内容確認調査
長貫B遺跡（隣接地）	島原市	42203	010	20200114～20200131	6.0	道路
寺中A遺跡（隣接地）	島原市	42203	011	20200114～20200131	18.0	道路
原口B遺跡（隣接地）	島原市	42203	003	20200114～20200221	38.0	道路
下源在高野遺跡（隣接地）	島原市	42203	075	20200114～20200131	19.0	道路
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	42202	493	20200311～20200319	20.0	河川
灰ノ久保遺跡	島原市	42203	085	20200217～20200221	12.0	道路

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第36集

長崎県埋蔵文化財調査年報 28
〔令和元年度調査分〕

2020年8月28日

発行 長崎県教育委員会
長崎市尾上町3番1号

印刷 株式会社 昭和堂
諫早市長野町1007-2